

公益社団法人日本薬理学会報告

本報告は平成 30 年度の学術評議員会・通常総会資料を基に作成しています。学会誌の刊行、決算及び収支予算については、会計（事業）年度で提示しています。

【目次】

- I. 学術評議員会及び通常総会報告
- II. 平成 29 年度事業報告
- III. 平成 29 年度決算報告
- IV. 平成 30 年度事業計画
- V. 平成 30 年度収支予算
- VI. 部会選出新常置委員一覧
- VII. 規則の変更
- VIII. 理事会等報告
- IX. 委員会等報告
- X. 新学術評議員一覧

I. 学術評議員会及び通常総会報告

日 時：平成 30 年 3 月 10 日（土）11 時～12 時 10 分

場 所：慶應義塾大学薬学部マルチメディア講堂（東京都港区）

議決権を有する構成員数：総会（138 名）、学術評議員会：1,234 名

議決権を有する出席者数：通常総会：出席者数 93 名（本人出席 39 名，議決権行使 50 名，委任状 4 名）

学術評議員会：出席者数 694 名（本人出席 119 名（うち役員 18 名），委任状 575 名）

議長及び議事録署名人：通常総会：議長：赤池 昭紀 署名人：飯野 正光，金子 周司

学術評議員会：議長：三澤日出巳 署名人：飯野 正光，金子 周司

付議事項

総務委員長より，平成 30 年の学術評議員会及び総会を第 138 回関東部会で開催するに至る経緯が説明され，定款施行細則第 32 条に「議長は年会長がこれに当たる」と規定されているため「年会長」を「部会長」に読み替え，第 138 回関東部会の三澤日出巳部会長が学術評議員会議長を務めること，及び学術評議員会は総会と同時開催のため，正会員が本会議を傍聴することについて議場の了解が求められた。議場の了解が得られたことを確認の後，両会議の成立を宣した。

議事録署名人に飯野 正光氏，金子 周司氏の 2 名を指名し，本日の議事に入った。

第 1 号議案 理事及び監事選任の件

総務委員長より，平成 30 年に就任する役員は，定款第 24 条第 1 項及び定款施行細則第 10 条による理事候補者 14 名，定款第 43 条第 2 項及び定款施行細則第 9 条第 3 項による役員選考委員会選出理事候補者 5 名，並びに定款第 24 条第 1 項及び定款施行細則第 14 条による監事候補者 2 名が第 90 回年会において選出されていることが総会に報告された。以下の候補者ごとに決議を行った結果，満場一致で理事候補者 19 名及び監事候補者 2 名の全員を選任した。

新理事：〔北〕 谷内 一彦，吉岡 充弘

〔関東〕 安西 尚彦，池谷 裕二，石毛久美子，上園 保仁，五嶋 良郎

〔近畿〕 金井 好克，金子 周司，西堀 正洋，橋本 均，山田 清文

〔西南〕 植田 弘師，笹栗 俊之

〔役員選考委員会選出理事〕 吉川 公平，木村 英雄，戸村 裕一，福永 浩司，矢部 千尋

新監事：伊藤 芳久，服部 裕一

第 2 号議案 平成 29 年度事業報告及び決算の件

理事長より，配布した資料に基づき平成 29 年度事業報告及び会員の状況が報告された。続いて財務委員長より平成 29 年度決算について貸借対照表，正味財産増減計算書，貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書並びに財産目録について説明と報告がなされた。

監事より，平成 29 年度公益社団法人日本薬理学会の事業及び決算を監査の結果，適正に処理されていることを確認した旨の監事監査結果が報告された。

議長より，平成 29 年度事業報告及び決算について付議され，両会議は満場一致でこれを承認，可決した。

第 3 号議案 平成 30 年度事業計画及び収支予算の件

平成 30 年度の事業計画について理事長より，平成 30 年度予算について財務委員長より，それぞれ説明がなされた。公益社団法人の予算は，理事会の承認を経て事業年度開始前に内閣府に提出するため，両会議に提示する事業計画及び予算は，平成 29 年 12 月 8 日に開催された理事会で承認され，昨年末に内閣府に提出したものであること，平成 30 年は第 18 回国際薬理学・臨床薬理学会議（WCP2018）が開催されるため，これを契機に各国薬理学会との連携をさらに強化していくとの方針が合わせて説明された。

議長より平成 29 年度事業計画及び予算について付議され，両会議は満場一致でこれを承認した。

第 4 号議案 諸規則の件

総務委員長より，1) 定款施行細則第 1 条の入会申請時の推薦学術評議員の署名を電子的方法とする変更，同第 29 条の学術評議員の申請資格を本会会員歴が原則として継続 5 年以上の者とする変更，同第 41 条の特別委員会に国際対応委員会を追加する変更，2) 常置委員会へ女性委員が継続的に参画できるよう，同数得票者について順位をつける必要のある場合，女性，年少者の順に上位とする役員等選挙実施規定第 18 条の変更，3) 年会開催を円滑に実施するための援助を定める「学術講演基金運用規定」，「学術講演基金運用規定運用細則」，「年会会計運用規則」の各変更，4) 日本医学会利益相反管理ガイドライ

ンが2017年3月に改定されたことに伴う「利益相反に関する指針」及び「利益相反マネジメント規則」の変更が説明された。議長より、規則の変更が合わせて付議され、両会議は満場一致でこれを承認、可決した。

第5号議案 名誉会員及び永年会員の件

理事会が推薦した名誉会員候補者 荒木 博陽, 今泉 祐治, 岡 淳一郎, 川西 徹, 齊藤亜紀良, 玉置 俊晃及び三輪 聡一 以上7氏の平成30年度名誉会員への推戴, 並びに永年会員候補者 大島 武史, 小野 秀樹, 川面 博, 竹内 孝治, 辻 正義, 丹羽 正美, 牧 栄二及び山本 経之 以上8氏の平成30年度永年会員への推戴の件について付議され、両会議は満場一致で承認、可決した。

第6号議案 第93回年会長の件

理事長より、2020年の第93回年会長として理事会は横浜市立大学大学院医学研究科の五嶋 良郎教授を選考したことが報告された。議長より、五嶋 良郎教授を第93回年会長に決定する件につき付議され、両会議は満場一致でこれを承認、可決した。

第7号議案 新学術評議員の件

企画教育委員長より、新学術評議員候補者として42名を選定したことが審査経過とともに報告された。議長より、平成30年度学術評議員に選任する件について付議され、両会議は満場一致でこれを承認、可決した。

WCP2018 準備報告

成宮 周 WCP2018 大会長より、WCP2018の準備状況が報告された。

II. 平成 29 年度事業報告

1. 学術集会, 講演会等の開催 (定款第 4 条第 1 号)

(1) 年 会

第 90 回日本薬理学会年会『出島に学ぶ ～Therapeutic Innovation from Dejima～』

平成 29 年 3 月 15 日(水)～17 日(金), 長崎ブリックホール・長崎新聞文化ホールアストピア(長崎県長崎市)

年会長: 植田 弘師 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 創薬薬理学分野 教授)

参加者: 2,007 名

(学術評議員 531 名, 一般会員 406 名, 非会員 247 名, 大学院生 235 名, 学部学生 171 名,
名誉会員・永年会員・招待演者・共催セミナー・展示企業関係者・ボランティアスタッフ等 417 名)

総演題数: 912 演題

(Plenary Lecture 1 演題, 特別講演 8 演題, 特別招待講演 2 演題, JPS-ASCEPT Lecture 1 演題,
受賞講演 4 演題 (江橋節郎賞 1 演題, 学術奨励賞 3 演題), 教育セミナー 1 企画 2 演題,
シンポジウム 46 企画 156 演題, ナノシンポジウム 1 企画 6 演題,
JPS サテライトシンポジウム 1 企画 5 演題, 早朝ワークショップ 8 企画 24 演題,
優秀発表賞候補演題 64 演題, ナノシンポジウム優秀発表賞候補演題 17 演題,
一般演題 (口演) 162 演題, 一般演題 (ポスター) 380 演題,
若手研究者キャリア支援プログラム (学生セッション優秀発表賞候補演題) 80 演題)

(2) 地方部会

第 131 回日本薬理学会近畿部会 部会長: 戸荻 彰史 (愛知学院大学・歯)
平成 29 年 6 月 30 日 ウィンクあいち(愛知県名古屋市)
参加者 252 名, 一般演題 (口演 76)

第 136 回日本薬理学会関東部会 部会長: 古川 哲史 (東京医科歯科大学難治疾患研)
平成 29 年 7 月 8 日 東京医科歯科大学鈴木記念講堂(東京都文京区)
参加者 236 名, シンポジウム 4, 一般演題 (口演 51, ポスター 31)

第 68 回日本薬理学会北部会 部会長: 石井 邦明 (山形大学・医)
平成 29 年 9 月 15 日, 16 日 山形テルサ(山形市)
参加者約 120 名, 一般演題 (口演 59)

第 137 回日本薬理学会関東部会 部会長: 鈴木 秀典 (日本医科大学・医)
平成 29 年 10 月 28 日 日本医科大学 教育棟・橘桜会館(東京都文京区)
参加者 277 名, 特別講演 1, 教育講演 1, 一般演題 (口演 59)

第 70 回日本薬理学会西南部会 部会長: 宮田 篤郎 (鹿児島大学・院・医歯学)
平成 29 年 11 月 18 日 かがしま県民交流センター(鹿児島市)
参加者約 200 名, 特別講演 1, ランチョンセミナー 1, 看護薬理学教育セミナー 1,
一般演題 (口演 44, ポスター 18)

第 132 回日本薬理学会近畿部会 部会長: 金井 好克 (大阪大学・院・医)
平成 29 年 11 月 24 日 千里ライフサイエンスセンター(大阪府豊中市)
参加者 288 名, 一般演題 (口演 89)

(3) 公開講座の開催

・公開講座 (第 90 回年会) 平成 29 年 3 月 17 日, 長崎ブリックホール(長崎市), 参加者 61 名
『依存性薬物の乱用とその実態－教育と行政の取り組み－』 責任者: 植田 弘師 (長崎大学・院・医歯薬)

・公開講座(近畿部会) 平成 29 年 6 月 30 日, ウィンクあいち(名古屋市), 参加者約 70 名
『しなやかで強い骨を守るために ～骨粗しょう症によるねたきりを防ぐ～』
責任者: 戸荻 彰史 (愛知学院大学・歯)

・公開講座(北部会) 平成 29 年 9 月 16 日, 山形テルサ (山形市), 参加者 52 名
『感染症に薬が効かなくなるのは何故か?』 責任者: 石井 邦明 (山形大学・医)

・公開講座(西南部会) 平成 29 年 11 月 19 日, かがしま県民交流センター (鹿児島市), 参加者: 33 名
『自律神経バランスの健康管理と抗ストレス食品について』 責任者: 宮田 篤郎 (鹿児島大学・院・医歯学)

(4) 他学会等との共催学術集会の開催

- ・日本薬理学会・日本医学会連合共催シンポジウム
第90回日本薬理学会年会時 平成29年3月16日, 長崎新聞文化ホール(長崎市)
『ミトコンドリア創薬—治療法の無い時代からの転換点』
オーガナイザー: 阿部 高明(東北大学・院・医工学)
安西 尚彦(千葉大学・院・医)
- ・日本薬理学会・日本生理学会共催シンポジウム
第90回日本薬理学会年会時 平成29年3月16日, 長崎新聞文化ホール(長崎市)
『痛み, 痒み, しびれなどの感覚受容の分子機構に関する最先端研究』
オーガナイザー: 富永 真琴(自然科学研究機構・岡崎バイオサイエンスセンター)
川畑 篤史(近畿大学・薬)
- ・日本薬理学会・日本臨床薬理学会共催シンポジウム
第90回日本薬理学会年会時 平成29年3月16日, 長崎新聞文化ホール(長崎市)
『糖尿病の薬理/臨床薬理 新たな血糖調節メカニズムの解明と Precision Medicine へのロードマップ』
オーガナイザー: 植田真一郎(琉球大学・院・医)
寺本 憲功(佐賀大学・医)
- ・日本薬理学会・日本毒性学会合同シンポジウム
第44回日本毒性学会学術年会時 平成29年7月11日, パシフィコ横浜・会議センター(神奈川県横浜市)
『細胞内小器官シグナルネットワークを介する臓器毒性制御』
オーガナイザー: 上原 孝(岡山大学・院・医歯薬)
西田 基宏(自然科学研究機構・生理研)

(5) 内外の関連学術団体との連携及び協力

- ・2017年4月開催のASPET年会(シカゴ)において, ASPET(米国薬理学会)とJPS(日本薬理学会)との講師交換プログラムとして飯野正光国際対応委員長が講演を行った。
- ・ASCEPT(オーストラリア・ニュージーランド薬理学会)のMary Chebib氏を第90回年会(2017年3月開催)に招へいし, 講演が行われた。2017年12月開催のASCEPT年会(ブリスベン)に杉山 雄一氏(理研)を派遣した。
- ・Pharmacology2017(英国薬理学会, 2017年12月開催)の日英ジョイントシンポジウムに成宮 周 WCP2018 会長と石井 優教授(大阪大学)がシンポジストとして参加した。
- ・2017年11月開催の韓国薬理学会(ソウル)に飯野正光国際対応委員長が参加し講演した。
- ・IUPHAR Nomenclature Committee (NC-IUPHAR) の会合(2017年10月13日~15日, パリ)に貝淵 弘三教授(名古屋大学)が参加した。
- ・IUPHAR Executive Committee が10月27日と28日にイタリアのリミニで開催され, IUPHAR の理事会に2nd Vice President の飯野正光国際対応委員長が出席し, WCP2018 の準備状況について報告を行った。
- ・IUPHAR Education Project (発展途上国等の薬理学教育を推進する目的のプログラム)に3年間の期限付き財政的援助の第2回目として平成29年度分1万ドルを送金した。
- ・APFP (Asia Pacific Federation of Pharmacologists) のホームページリニューアルを支援した。

2. 学会誌等刊行物の刊行(定款第4条第2号)

(1) Journal of Pharmacological Sciences の刊行

発行巻号	133巻1~4号, 134巻1~4号, 135巻1~4号 134巻 Supplement (the 90th Annual Meeting)	掲載頁数	(篇数)
① Review		29 頁	(3)
② Full Paper		630 頁	(82)
③ Short Communication		40 頁	(11)
④ Letter, 他		1 頁	(1)
	小計	700 頁	(97)
⑤ Vol.133 Supplement		298 頁	
	合計	998 頁	(98)

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとかからだ／ファーマコロジカ）の刊行

発行巻号（部数） 149巻 1号(4,050部), 149巻 2, 3号(各4,100部),
149巻 4号(3,200部), 149巻 5号(3,300部), 149巻 6号(3,450部),
150巻 1号(3,550部), 150巻 2号(3,600部), 150巻 3号(3,650部),
150巻 4号(3,750部), 150巻 5号(3,800部), 150巻 6号(3,850部)

	掲載頁数	(篇数)
① 特集序文	15 頁	(15)
② 特集および総説	334 頁	(61)
③ 実験技術	24 頁	(4)
④ 創薬シリーズ	51 頁	(9)
⑤ 新薬紹介総説	87 頁	(8)
⑥ キーワード解説	8 頁	(3)
⑦ 最近の話題	8 頁	(8)
⑧ サイエンス/リレーエッセイ	13 頁	(13)
⑨ 学会便り/研究室訪問	9 頁	(9)
⑩ アゴラ	24 頁	(12)
⑪ 広告	96 頁	
⑫ 綴込み, 目次等上記以外の頁	189 頁	
合計	858 頁	(142)

(3) WCP2018 開催に向けて, 参加者への配布を目的に, 薬理学パンフレット「日本薬理学会の貢献 (仮称)」を作成中である。
和英2ヵ国語で作成し, ホームページからも世界に発信する。

(4) 会員名簿の発行

平成 29 年より新会員管理システムの検索機能を利用した Web 名簿に移行した。

3. 研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第 4 条第 3 号)

(1) 第 10 回日本薬理学会江橋節郎賞授賞

池谷 裕二 (東京大学大学院薬学系研究科・教授)

第 11 回日本薬理学会江橋節郎賞決定

萩原 正敏 (京都大学大学院医学研究科・教授)

(2) 第 32 回日本薬理学会学術奨励賞授賞 (所属等の標記は授賞時)

金丸 和典 (東京大学大学院医学系研究科細胞分子薬理学講座・助教)
『カルシウムイメージングで切り拓くアストロサイト機能』

佐々木拓哉 (東京大学大学院薬学系研究科薬品作用学教室・助教)
『脳細胞ネットワークの機能動態とその破綻機構の解明』

塩田 倫史 (岐阜薬科大学学生体機能解析学大講座分子生物学研究室・准教授)
『ドパミンD₂ 受容体を介した細胞内シグナル伝達機構の解明』

第 33 回日本薬理学会学術奨励賞決定 (裏表紙)

(3) 第 22 回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞決定 (掲載順)

Inhibition of Autophagy Contributes to Melatonin-Mediated Neuroprotection Against Transient Focal Cerebral Ischemia in Rats

Yongqiu Zheng, Jincan Hou, Jianxun Liu, Mingjiang Yao, Lei Li, Bo Zhang, Hua Zhu, and Zhong Wang
Vol. 124, No. 3 pp. 354-364 (2014)

Assessment of Testing Methods for Drug-Induced Repolarization Delay and Arrhythmias in an iPS Cell-Derived Cardiomyocyte Sheet: Multi-site Validation Study

Yuji Nakamura, Junko Matsuo, Norimasa Miyamoto, Atsuko Ojima, Kentaro Ando, Yasunari Kanda,
Kohei Sawada, Atsushi Sugiyama, and Yuko Sekino
Vol. 124, No. 4 pp. 494-501 (2014)

(4) 2017 年度 JPS 優秀査読者賞

- ・ Hye Sun Kim (Seoul National University Department of Pharmacology, College of Medicine, Korea)
- ・ 吾郷 由希夫 (大阪大学大学院薬学研究科)

(5) 第 90 回年会優秀発表賞（五十音順・10 名）

宇津 美秋（千葉大・院薬・臨床薬理学）	長坂 明臣（九州大・院薬・薬効安全性学）
大町 紘平（熊本大・院薬・遺伝子機能応用学）	二之湯 弦（神戸大・ハ`イ`ク`ガ`ル`研・分子薬理学）
大森 啓介（東京大・院農・放射線動物科学）	平野 満（京都大・院工・分子生物化学）
亀井 竣輔（熊本大・院薬・遺伝子機能応用学）	松田 将也（摂南大・薬・薬効薬理学）
勢力 薫（大阪大・院薬・神経薬理学）	南嶋 洋司（九州大・生医研・分子医科学）

4. 薬理学に関する研究及び調査（定款第 4 条第 4 号）

(1) 薬理学エデュケーター制度の検討

本制度は、優れた薬理学教育者を育成・支援することを目的に設置されるもので、ワーキンググループを編成して薬理学エデュケーター制度実施要件等の検討を行っている。

(2) 薬理学エデュケーター制度導入や新しい分野の取り込みの一環で、本会で使用されているカテゴリー表に新たな項目を追加することおよびカテゴリー表の再編に向けて、所管委員会で検討を行っている。

5. 内外の関連学術団体との連携及び協力（定款第 4 条第 5 号）

(1) 学術集会の共催および連携 上記 1. の(4), (5) を参照

(2) 学術集会の協賛・後援（平成 29 年年会から平成 30 年通常総会前日まで）

協 賛

1) 第 24 回 HAB 研究機構学術年会	平成 29 年 6 月 1 日～3 日
2) 第 21 回活性アミンに関するワークショップ	8 月 25 日
3) 日本看護研究学会第 43 回学術集会 看護薬理学教育セミナー共催	8 月 30 日
4) CBI 学会 2017 年大会	10 月 3 日～5 日
5) 第 27 回日本循環薬理学会	12 月 1 日
6) 分子生物学会・生化学会 2017 合同大会	12 月 6 日～9 日
7) 第 21 回日本ヒスタミン学会	12 月 21, 22 日

後 援

1) 第 12 回日本分子イメージング学会総会・学術集会	平成 29 年 5 月 25, 26 日
2) 第 64 回日本実験動物学会総会	5 月 25 日～27 日
3) 日本ケミカルバイオロジー学会 第 12 回年会	6 月 7 日～9 日
4) 医療薬学フォーラム 2017 第 25 回クリニカルファーマシーシンポジウム	7 月 1, 2 日
5) 第 63 回脳の医学・生物学研究会	7 月 29 日
6) 第 22 回日本病態プロテアーゼ学会	8 月 11, 12 日
7) 日本薬学会薬理系部会「生体機能と創薬シンポジウム 2017」	8 月 24, 25 日
8) 第 19 回応用薬理シンポジウム	9 月 15, 16 日
9) 創薬薬理フォーラム第 25 回シンポジウム	9 月 21, 22 日
10) 第 20 回カルシウム結合蛋白質とカルシウム機構の 生理と病態に関する国際シンポジウム (CaBP20)	10 月 22 日～26 日
11) 第 2 回黒潮カンファレンス	10 月 28, 29 日
12) 第 5 回国際サイトカイン・インターフェロン学会年会 2017	10 月 29 日～11 月 2 日
13) 日本動物実験代替法学会第 30 回大会 レギュラトリーサイエンスと 3Rs	11 月 23 日～25 日
14) 日本薬物動態学会第 32 回年会	11 月 29 日～12 月 1 日
15) 第 64 回「脳の医学・生物学研究会」	平成 30 年 1 月 20 日

6. 会議等の開催状況（平成 29 年年会から平成 30 年総会前まで）

総 会	平成 29 年度通常総会	平成 29 年 3 月 15 日	(長崎)
学術評議員会	平成 29 年度	平成 29 年 3 月 15 日	(長崎)
理 事 会	平成 29 年度 第 3 回 第 4 回	平成 29 年 7 月 7 日 12 月 8 日	(東京) (東京)
	平成 30 年度 第 1 回 第 2 回	平成 30 年 2 月 3 月 9 日	(書面決議) (東京)
WCP2018 組織委員会 (右記の他各種委員会を 毎月開催)	財務委員会 執行部打合せ プログラム委員会 Bursary 採択選考	平成 29 年 9 月 5 日 12 月 19 日 12 月 20 日 平成 30 年 2 月 7 日	(東京) (東京) (東京) (東京)
総務委員会	平成 29 年度 第 1 回 持ち回り開催	平成 29 年 11 月 3 日	(東京)
財務委員会	平成 29 年度 第 1 回 予算案検討ワーキング 会 計 監 査 監 事 監 査	平成 29 年 11 月 9 日 10 月 31 日 平成 30 年 1 月 12 日 1 月 26 日, 29 日 平成 30 年 2 月 7 日	(東京) (東京) (東京) (東京) (東京)
編集委員会	平成 29 年度 第 1 回	平成 29 年 3 月 16 日	(長崎)
研究推進委員会	平成 29 年度 第 1 回 第 2 回	平成 29 年 3 月 16 日 6 月 26 日	(長崎) (東京)
広報委員会	平成 29 年度 第 1 回 第 2 回	平成 29 年 3 月 15 日 8 月 30 日	(長崎) (東京)
企画教育委員会	平成 29 年度 第 2 回 平成 30 年度 第 1 回 次世代の会 薬理学エデュケーター ワーキング	平成 29 年 3 月 17 日 平成 30 年 1 月 31 日 平成 29 年 3 月 16 日 平成 29 年 8 月 31 日	(長崎) (東京) (長崎) (東京)
賞等選考委員会	平成 29 年度 第 1 回	平成 29 年 9 月 19 日	(東京)
年会学術企画委員会	平成 29 年度 第 1 回 持ち回り開催	平成 29 年 6 月 3 日	(東京)
江橋賞選考委員会	平成 29 年度 第 1 回	平成 29 年 10 月 27 日	(東京)
国際対応委員会	平成 29 年度 第 1 回 第 2 回	平成 29 年 3 月 15 日 12 月 8 日	(長崎) (東京)
利益相反(COI)委員会	平成 29 年度 第 1 回	平成 29 年 11 月 3 日	(東京)

7. 会員状況（平成 29 年 12 月 31 日現在）

会員数および異動状況（下段は前年度との差）

代議員 (正会員を含む)	名誉会員	永年会員	正会員		総数
			学術評議員	一般会員	
1 3 9	1 1 8	8 5	1, 2 5 6	2, 8 6 2	4, 3 2 1
- 1	+ 1	+ 5	- 3 4	- 2 4 7	- 2 7 5

新入会者数：288 名，退会者数：563 名（逝去者，会費未納除籍者含む）

平成 29 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

Ⅲ. 平成 29 年度決算報告

独立監査人の監査報告書

平成 30 年 2 月 7 日

公益社団法人 日本薬理学会
理事長 赤池 昭紀 殿

中村公認会計士事務所
公認会計士 中村 友理香 ㊞

<財務諸表監査>

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に準じ、公益社団法人日本薬理学会の平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日までの平成 29 年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドライン I-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体として財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財産目録に対する意見>

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に準じ、公益社団法人日本薬理学会の平成 29 年 12 月 31 日現在の平成 29 年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

私の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本薬理学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監 査 報 告 書

公益社団法人 日 本 薬 理 学 会

理事長 赤池 昭紀 殿

平成 30 年 2 月 7 日

公益社団法人 日 本 薬 理 学 会

監事 馬嶋 正隆 ㊞

監事 三輪 聡一 ㊞

私たちは、平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

- 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて、財務諸表並びに収支計算書の正確性を検討した。
- 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- 貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録及び収支計算書は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- 事業報告書の内容は、真実であると認める。
- 理事の業務執行に関する不整の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失はないと認める。

貸借対照表

平成29年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現 金	3,409,503	2,699,760	709,743
預 貯 金	60,600,541	36,099,382	24,501,159
未収入金	11,850,786	16,157,651	△ 4,306,865
前 払 金	4,060,030	2,168,851	1,891,179
貯 蔵 品	2,944	3,147	△ 203
流動資産合計	79,923,804	57,128,791	22,795,013
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
薬理学基金	50,000,000	40,000,000	10,000,000
国際基金	2,423,696	3,790,132	△ 1,366,436
振興基金			
学術講演基金	21,308,605	28,158,776	△ 6,850,171
刊行基金	15,781,772	18,537,625	△ 2,755,853
褒賞基金	15,008,418	20,551,147	△ 5,542,729
WCP2018開催資産	1,580,000	0	1,580,000
公開講座開催資産	0	1,000,000	△ 1,000,000
国際情報発信強化資産	871,902	1,838,883	△ 966,981
特定資産合計	106,974,393	113,876,563	△ 6,902,170
(2) その他固定資産			
ソフトウェア	2,789,250	805,013	1,984,237
電話加入権	2	2	0
保 証 金	1,572,000	1,572,000	0
投資有価証券	20,029,651	20,059,347	△ 29,696
長期貸付金	2,088,220	959,897	1,128,323
その他固定資産合計	26,479,123	23,396,259	3,082,864
固定資産合計	133,453,516	137,272,822	△ 3,819,306
資 産 合 計	213,377,320	194,401,613	18,975,707
II 負債の部			
1. 流動負債			
前 受 金	960,500	953,500	7,000
未 払 金	23,882,759	17,637,935	6,244,824
預 り 金	3,875,572	429,709	3,445,863
流動負債合計	28,718,831	19,021,144	9,697,687
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負 債 合 計	28,718,831	19,021,144	9,697,687
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
受取補助金	871,902	2,838,883	△ 1,966,981
受取寄付金	1,580,000	0	1,580,000
指定正味財産合計	2,451,902	2,838,883	△ 386,981
(うち特定資産への充当額)	(2,451,902)	(2,838,883)	(△386,981)
2. 一般正味財産	182,206,587	172,541,586	9,665,001
(うち特定資産への充当額)	(104,522,491)	(111,037,680)	(△6,515,189)
正味財産合計	184,658,489	175,380,469	9,278,020
負債及び正味財産合計	213,377,320	194,401,613	18,975,707

正味財産増減計算書

平成29年1月1日から平成29年12月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	30,834	38,556	△ 7,722
薬理学基金受取利息	26,438	30,212	△ 3,774
国際基金受取利息	234	469	△ 235
振興基金受取利息	4,162	7,875	△ 3,713
② 受取会費	47,264,500	49,782,500	△ 2,518,000
一般会員会費	18,337,000	20,664,500	△ 2,327,500
学術評議員会費	19,087,500	19,068,000	19,500
賛助会員会費	9,840,000	10,050,000	△ 210,000
③ 事業収益	85,836,219	84,379,101	1,457,118
学術集会費収益	63,409,600	57,591,156	5,818,444
購読料収益	824,230	917,930	△ 93,700
論文掲載料収益	15,380,480	16,206,961	△ 826,481
論文別刷料収益	1,392,829	3,862,934	△ 2,470,105
広告掲載料収益	4,807,080	5,793,120	△ 986,040
予稿集売上等収益	22,000	7,000	15,000
④ 受取補助金等	12,800,981	10,804,288	1,996,693
学術集会補助金	3,434,000	1,734,400	1,699,600
指定正味財産からの振替額	9,366,981	9,069,888	297,093
⑤ 受取寄付金	13,245,000	15,622,000	△ 2,377,000
学術集会賛助金	13,245,000	15,172,000	△ 1,927,000
指定正味財産からの振替額	0	450,000	△ 450,000
⑥ 雑 収 益	101,247	404,524	△ 303,277
受取利息	46,047	54,524	△ 8,477
雑 収 益	55,200	350,000	△ 294,800
経常収益計	159,278,781	161,030,969	△ 1,752,188
(2) 経常費用			
① 事 業 費	134,627,678	145,512,612	△ 10,884,934
給与手当	5,836,135	5,263,705	572,430
法定福利費	924,162	733,168	190,994
事務所借料	1,400,051	1,200,051	200,000
会 場 費	30,011,474	43,468,198	△ 13,456,724
旅費・通信交通費	8,199,568	4,169,284	4,030,284
印 刷 費	4,595,539	7,237,512	△ 2,641,973
会 議 費	4,394,067	2,143,182	2,250,885
謝金・その他	12,471,870	13,176,221	△ 704,351
懇親会費	9,005,857	6,670,720	2,335,137
編集・刊行費	25,201,385	31,956,000	△ 6,754,615
国際情報発信強化費	8,378,943	7,969,870	409,073
学術事業協力費	1,695,960	1,347,700	348,260
副 賞	1,530,500	1,108,600	421,900
消耗品費	642,600	654,922	△ 12,322
業務委託費	19,802,947	17,306,379	2,496,568
租税公課	536,620	1,107,100	△ 570,480

科 目	当年度	前年度	増 減
② 管 理 費	14,986,102	18,305,636	△ 3,319,534
給与手当	2,661,693	3,088,706	△ 427,013
法定福利費	396,069	488,780	△ 92,711
事務所借料	600,973	800,973	△ 200,000
旅費・通信交通費	3,559,955	3,956,587	△ 396,632
印 刷 費	193,860	304,047	△ 110,187
会 議 費	690,597	710,666	△ 20,069
リース料	175,824	33,566	142,258
消耗品費	971,416	1,094,463	△ 123,047
支払手数料	846,446	809,426	37,020
慶弔費	244,410	477,294	△ 232,884
臨時雇賃金	404,552	0	404,552
業務委託費	3,341,920	5,766,750	△ 2,424,830
租税公課	8,050	3,050	5,000
減価償却費	607,763	342,395	265,368
選 挙 費	0	197,555	△ 197,555
雑 費	282,574	231,378	51,196
經常費用計	149,613,780	163,818,248	△ 14,204,468
評価損益等調整前当期經常増減額	9,665,001	△ 2,787,279	12,452,280
基本財産評価損益等			
特定資産評価損益等			
投資有価証券評価損益等			
評価損益等計	0	0	0
当期經常増減額	9,665,001	△ 2,787,279	12,452,280
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
(2) 經常外費用			
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	9,665,001	△ 2,787,279	12,452,280
一般正味財産期首残高	172,541,586	175,328,865	△ 2,787,279
一般正味財産期末残高	182,206,587	172,541,586	9,665,001
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金	7,400,000	9,100,000	△ 1,700,000
受取寄付金	1,580,000	0	1,580,000
一般正味財産への振替額	△ 9,366,981	△ 9,519,888	152,907
当期指定正味財産増減額	△ 386,981	△ 419,888	32,907
指定正味財産期首残高	2,838,883	3,258,771	△ 419,888
指定正味財産期末残高	2,451,902	2,838,883	△ 386,981
III 正味財産期末残高	184,658,489	175,380,469	9,278,020

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券は、償却原価法（定額法）による。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品は1冊を1円として評価している。

(3) 固定資産の減価償却の方法

定額法による。

(4) 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理している。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである。

特定資産

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
薬理学基金	40,000,000	10,000,000	0	50,000,000
国際基金	3,790,132	234	1,366,670	2,423,696
振興基金				
学術講演基金	28,158,776	1,743	6,851,914	21,308,605
刊行基金	18,537,625	1,147	2,757,000	15,781,772
褒賞基金	20,551,147	1,272	5,544,001	15,008,418
WCP2018開催資産	0	1,580,000	0	1,580,000
公開講座開催資産	1,000,000	0	1,000,000	0
国際情報発信強化資産	1,838,883	7,400,000	8,366,981	871,902
合 計	113,876,563	18,984,396	25,886,566	106,974,393

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである。

特定資産

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
薬理学基金	50,000,000	0	(50,000,000)	-
国際基金	2,423,696	0	(2,423,696)	-
振興基金				
学術講演基金	21,308,605	0	(21,308,605)	-
刊行基金	15,781,772	0	(15,781,772)	-
褒賞基金	15,008,418	0	(15,008,418)	-
WCP2018開催資産	1,580,000	(1,580,000)	0	-
国際情報発信強化資産	871,902	(871,902)	0	-
合 計	106,974,393	(2,451,902)	(104,522,491)	0

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウェア	3,394,500	605,250	2,789,250
合 計	3,394,500	605,250	2,789,250

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	帳簿価額	時 価	評価損益
国 債	40,029,651	40,140,465	110,814
合 計	40,029,651	40,140,465	110,814

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
国際情報発信強化補助金	日本学術振興会	1,838,883	7,400,000	8,366,981	871,902	指定正味財産
科学研究費公開講座補助金	日本学術振興会	1,000,000	0	1,000,000	0	指定正味財産
学会等開催助成(第90回年会)	日本医学会	0	300,000	300,000	0	
海外学者招聘助成金(第90回年会)	(公財)内藤記念科学振興財団	0	54,000	54,000	0	
学会等開催助成(第90回年会)	(公財)東京生化学研究会	0	450,000	450,000	0	
コンベンション開催助成金(第90回年会)	(公社)長崎国際観光コンベンション	0	1,550,000	1,550,000	0	
学会等開催助成(第90回年会)	長崎県薬剤師会	0	50,000	50,000	0	
学術会議等開催支援(第68回北部会)	山形大学医学部	0	70,000	70,000	0	
学術会議等開催支援(第68回北部会)	(医)誠仁会尾野病院	0	300,000	300,000	0	
学術会議等開催支援(第68回北部会)	(医)石川整形外科医院	0	100,000	100,000	0	
学術会議等開催支援(第68回北部会)	こじまこどもクリニック	0	100,000	100,000	0	
学術会議等開催支援(第137回関東部会)	学校法人日本医科大学	0	300,000	300,000	0	
学術会議等開催支援(第131回近畿部会)	(公財)大幸財団	0	160,000	160,000	0	
合 計		2,838,883	10,834,000	12,800,981	871,902	

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除(受取補助金)	9,366,981

8. 資産除却債務関係

事務局の不動産賃貸借契約に基づき、オフィス退去時における現状回復に係る債務を有しているが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、当面事務局を移転する予定もないことから、資産除却債務を合理的に見積もることができない。そのため、当該債務に見合う資産除却債務を計上していない。

附属明細書

1 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである。

特定資産

(単位:円)

科 目	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
薬理学基金	投資有価証券・第118回利付国債	20,000,000	0	0	20,000,000
	定期預金(三菱東京UFJ・本郷)	20,000,000	10,000,000	0	30,000,000
国際基金	ゆうちょ通常貯金	3,790,132	234	1,366,670	2,423,696
振興基金					
学術講演基金	定期預金(三菱東京UFJ・本郷)	13,340,000	0	10,000,000	3,340,000
	ゆうちょ定期貯金	13,000,000	0	0	13,000,000
	ゆうちょ通常貯金	1,818,776	3,149,829		4,968,605
刊行基金	定期預金(みずほ・本郷)	10,000,000	0	0	10,000,000
	ゆうちょ通常貯金	0	5,781,772		5,781,772
	普通預金(みずほ・本郷)	8,537,625	0	8,537,625	0
褒賞基金	ゆうちょ通常貯金	20,551,147	0	5,542,729	15,008,418
WCP2018開催資産	普通預金(みずほ・本郷)	0	1,580,000	0	1,580,000
公開講座開催資産	普通預金(三菱東京UFJ・本郷)	1,000,000	0	1,000,000	0
国際情報発信強化資産	普通預金(三菱東京UFJ・聖護院)	1,838,883	0	1,838,883	0
	普通預金(三菱東京UFJ・本郷)	0	871,902		871,902
	特定資産計	113,876,563	21,383,737	28,285,907	106,974,393

財 産 目 録

平成29年12月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額	
(流動資産)	現金	手元保管	3,409,503	
	預貯金	普通預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店	30,939,112	
		普通預金・みずほ銀行本郷支店	14,020,272	
		ゆうちょ銀行通常貯金	521,559	
		ゆうちょ銀行振替貯金	15,119,598	
		<現金・預貯金計>	64,010,044	
	未収入金	収納代行会社	174,000	
		一般会員会費 (3名分)	18,000	
		学術評議員会費(69名分)	1,026,000	
		購読料	790,800	
		掲載料	8,245,040	
		論文別刷料	820,476	
		広告掲載料	743,040	
		バックナンバー売上金	33,430	
	<未収入金計>	11,850,786		
前払金	第92回年会	1,900,000		
	第138回関東部会	300,000		
	ソフトウェア構築費用	1,728,000		
	封筒代等	132,030		
<前払金計>	4,060,030			
貯蔵品	既刊誌(2016, 2017年)	2,944		
<貯蔵品計>	2,944			
流動資産合計			79,923,804	
(固定資産) 特定資産	薬理学基金	投資有価証券第118回利付国債	20,000,000	
		定期預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店	30,000,000	
	<薬理学基金計>	50,000,000		
	国際基金	ゆうちょ銀行通常貯金	2,423,696	
	<国際基金計>	2,423,696		
	振興基金	学術講演基金	定期預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店	3,340,000
			ゆうちょ銀行定期貯金	13,000,000
			ゆうちょ銀行通常貯金	4,968,605
	<学術講演基金計>	21,308,605		
	刊行基金	定期預金・みずほ銀行本郷支店	10,000,000	
		ゆうちょ銀行通常貯金	5,781,772	
	<刊行基金計>	15,781,772		
	褒賞基金	ゆうちょ銀行通常貯金	15,008,418	
	<褒賞基金計>	15,008,418		
	WCP2018 開催資産	普通預金・みずほ銀行本郷支店	WCP2018の寄付金である	1,580,000
<WCP2018開催資産計>			1,580,000	
国際情報発信 強化資産	普通預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店	871,902		
<国際情報発信強化資産計>	871,902			
<特定資産合計>	106,974,393			

その他 固定資産	ソフトウェア	会員管理システム	管理目的の資産である	2,789,250	
	電話加入権	電話回線 2台	公益目的保有財産であり、公益目的事業に使用している	2	
	保証金	(株)学会センタービル	(共用財産)	1,572,000	
			うち公益目的保有財産25%	393,000	
			うち管理目的として使用する財産75%	1,179,000	
	投資有価証券	第113回利付国債	運用益を公益目的事業と管理目的の財源として使用している	20,029,651	
	長期貸付金	WCP2018	日本臨床薬理学会との連携機構に貸し付けたWCP2018準備費用である	2,088,220	
<その他固定資産計>				26,479,123	
固定資産合計				133,453,516	
資産合計				213,377,320	
(流動負債)	前受金	2018年一般会員会費(7名分)	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する次年度及び次々年度会費である。	33,500	
		2018, 2019年年学術評議員会費(8名分)		120,000	
		2018年部会抄録掲載料(269題分)	次年度刊行雑誌の抄録掲載料及び購読料である	807,000	
	<前受金計>				960,500
	未払金	職員給与等	2017年12月分職員給与である	649,379	
		社会保険料	事業主負担分	205,445	
		福田商店代理店委託費	学会誌の広告代理店委託費である	148,608	
		業務委託費等	刊行事業の業務委託費及び会計監査費用等である	22,674,127	
		消費税	公益目的事業の消費税である	205,200	
	<未払金計>				23,882,759
預り金	職員他源泉所得税	職員給与と学術集会開催事業の謝金の源泉所得税である	167,135		
	職員社会保険料等	職員から預った社会保険料及び住民税である	139,254		
	参加登録費	WCP2018参加登録費である	3,569,183		
<預り金計>				3,875,572	
流動負債合計				28,718,831	
(固定負債)		<固定負債合計>		0	
固定負債合計				0	
負債合計				28,718,831	
正味財産				184,658,489	

IV. 平成 30 年度事業計画

第 18 回国際薬理学・臨床薬理学会議 (WCP2018) の京都開催が、いよいよ今年の 7 月に迫ってきました。WCP2018 は第 91 回日本薬理学会との同時開催になります。日本薬理学会は、WCP2018 組織委員会と協力して国際会議を成功させるとともに、薬理学会の更なる活性化を図ることを本年度の重点目標とします。国際連携強化の一環として特別委員会に国際対応委員会が設置されており、本委員会を軸に理事会、各委員会が一致協力して、WCP2018 の成功と学会国際化の推進に向けた活動を進めます。さらに、WCP2018 終了後の 2019 年以降の年会の活性化に向けた活動も年会学術企画委員会を中心に進めます。

学会機関誌については、編集委員会ならびに広報委員会を中心に更なる質の向上に努めます。特に、国際情報発信強化助成金を用いた Journal of Pharmacological Sciences (JPS) の国際誌レベルアップを一層進めてまいります。新しい薬理学パンフレット (邦文および英文) も作成する予定です。

次世代の会の活動の充実、薬理学エドゥケーター制度の導入、看護薬理学への対応などの検討を行い、若手研究者も含めた学会活動の促進に取り組んでいきます。

財政状況につきましては、会費収入の漸減傾向が続いていますが、前期理事会から引き続いての経費削減努力により、収支バランスが好転しました。それを受けて、会員管理システムのリニューアルを行い、連動した諸種システムなどを一本化しました。今後も会員の方の手続き利便性の向上を目指します。事務局体制につきましては、平成 32 年度以降も 5 年ごとの見直しを行いながら継続することを決定しましたので、新規職員の採用等も含め、将来も安定した学会運営体制の構築を目指します。

本会の更なる発展を目指すため、会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力をお願いいたします。

理事長 赤池 昭紀

1 薬理学研究の進展及び薬理学研究者育成のための学術集会及び講演会等の開催事業 (公益目的事業 1)

(1) 年会の開催

第 91 回年会は、WCP2018 と 7 月に同時開催。

- ・第 91 回 日本薬理学会年会 特別年会長：成宮 周(京都大学・院・医)
平成 30 年 7 月 1 日～6 日 京都国際会議場

(2) 地方部会の開催

6 回の地方部会を開催する。多彩な企画を予定している。

- ・第 138 回 日本薬理学会関東部会 (平成 30 年度総会を開催)
部会長：三澤日出巳 (慶應義塾大学・薬)
平成 30 年 3 月 10 日 慶應義塾大学薬学部
- ・第 69 回 日本薬理学会北部会
部会長：松本 欣三 (富山大学・和漢医薬研)
平成 30 年 9 月 21 日 富山国際会議場
- ・第 139 回 日本薬理学会関東部会
部会長：初山 俊彦 (東京慈恵会医科大学・医)
平成 30 年 10 月 20 日 東京慈恵会医科大学一号館
- ・第 133 回 日本薬理学会近畿部会
部会長：酒井 規雄 (広島大学・院・医歯薬保健)
平成 30 年 6 月 1 日 広島県医師会館
- ・第 134 回 日本薬理学会近畿部会
部会長：徳山 尚吾 (神戸学院大学・薬)
平成 30 年 11 月 23 日 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
- ・第 71 回 日本薬理学会西南部会
部会長：笹栗 俊之 (九州大学・院・医)
平成 30 年 11 月 17 日 九州大学医学部百年講堂

(3) 市民公開講座の開催

科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動の一環として地方部会と連動して 3 回の市民公開講座を開催する予定である。

- ・公開講座 (第 69 回北部会) 平成 30 年 9 月 22 日、富山国際会議場 (富山市)
- ・公開講座 (第 134 回近畿部会) 平成 30 年 11 月 23 日 (予定)、神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
- ・公開講座 (第 71 回西南部会) 平成 30 年 11 月 17 日 (予定)、九州大学医学部百年講堂

(4) 次世代薬理学セミナーの開催

日本の薬理学研究の活性化及び国際プレゼンスの向上のため、意欲と能力のある若手を育成し、学会活動への積極的な参画を促すため、若手研究者による若手研究者を対象の次世代薬理学セミナーを開催する。

- ・次世代薬理学セミナー2018『薬理学の次世代を築く新たなアプローチ』

平成30年3月10日、慶應義塾大学薬学部マルチメディア講堂

2 薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及を目的とし、学会誌等を刊行する事業（公益目的事業2）

(1) Journal of Pharmacological Sciences を全面電子体のオープンアクセス誌として刊行する。

- ・2018年刊行予定：136巻1～4号、137巻1～4号、138巻1～4号

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとかからだ／ファーマコロジカ）の刊行

- ・2018年刊行予定：151巻1～6号、152巻1～6号 計12冊

(3) 「日本の薬理学研究の貢献（仮称）」を記載した日本語版、英語版のパンフレットを作成し、WCP2018の参加者に配布する。

パンフレットは和英ともにホームページに掲載し、全世界への一般向け情報として発信する。

3 優れた業績をあげた研究者の表彰及び研究の一層の飛躍を期待した研究奨励のために、各賞を設置し、研究者と研究業績を表彰する事業（公益目的事業3）

(1) 江橋節郎賞

日本薬理学会名誉会員故江橋節郎先生の生命科学への貢献を末永く顕彰するため、江橋節郎賞を創設し、独創的、飛躍的な業績をあげ、薬理学の進歩に大きく貢献した研究者に授与しているが、薬理学の振興という本賞創設の趣旨に則り、第10回より、これからますます発展が期待される若手研究者も受賞対象として推薦を受け付けている。

- ・第11回江橋節郎賞受賞者の受賞講演は、平成30年7月のWCP2018開催中に行われる。

萩原 正敏（京都大学大学院医学研究科）

『先天性難病等の治療を可能とする創薬研究』

- ・第12回江橋節郎賞は5月末日までに募集を公告し、推薦の締切は8月末日、江橋節郎賞選考委員会の選考を経て理事会で決定する。

(2) 学術奨励賞

薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に学術奨励賞を授与する。

- ・第33回学術奨励賞受賞者3名の受賞講演は、平成30年7月のWCP2018開催中に行われる。

泉 安彦（京都大学大学院薬学研究科・薬品作用解析学分野・助教／神戸薬科大学薬学部 薬理学研究室・講師）

『ドパミン神経軸索伸長の新たな評価系の確立とその制御因子に関する研究』

岡田 宗善（北里大学獣医学部獣医薬理学研究室・准教授）

『心疾患における細胞外マトリックス分解断片 canstatin の役割解明』

清水 孝洋（高知大学教育研究部医療学系基礎医学部門薬理学講座・准教授）

『ストレス反応の脳内制御機構に関する薬理学的研究』

- ・第34回学術奨励賞は5月末日までに募集を公告し、推薦の締切は8月末日、賞等選考委員会の選考を経た3件以内の候補者について理事会が決定する。

(3) JPS 優秀論文賞

過去3年間にJPSに掲載された論文の中で引用回数の多い順に毎年約10編の中から特に優れたものを選出し、その著者にJPS優秀論文賞を授与する。

- ・第22回JPS優秀論文賞受賞2編の授与式はWCP2018開催中に行われる予定。

- ・第23回JPS優秀論文賞（本賞授賞の趣旨に則り）3編以内を決定する。

(4) 年会優秀発表賞

平成30年の年会はWCP2018と同時開催のため、年会優秀発表賞選出は無し。

(5) 優秀査読者賞

Journal of Pharmacological Sciencesの査読者の質を向上させ、掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で5名以内にJPS優秀査読者賞を授与する。

4 薬理学及びわが国学術文化の進展・発展への寄与を目的とした、内外の関連学術団体との連携及び協力事業 (公益目的事業4)

(1) 日本学術会議との連携

日本学術会議協力学術研究団体の一員である本会は、日本学術会議国際対応分科会の活動として国際連携を推進する。

(2) 生物科学学会連合との連携

加盟団体と情報を共有して「生物科学」の健全な発展に協力するために、定例会議に出席する。

(3) 国内の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する。

- ・日本生理学会との共催シンポジウム 平成30年3月28日～30日、サンポートホール高松他（香川県）
シンポジウムタイトル：『センシングチャネル研究へのシンプルなアプローチ：生理学から薬理学へ』
オーガナイザー：檜山 武史(基礎生物学研)、中川 貴之(京都大・病院)
- ・日本毒性学会との共催シンポジウム 平成30年7月18日～20日、大阪国際会議場
シンポジウムタイトル：『毒性発現と性差』、オーガナイザー：黒川 洵子(静岡県立大学・薬)
- ・日本看護研究学会第44回学術集会との合同シンポジウム 平成30年8月、熊本県立劇場
- ・看護薬理学カンファレンス2018として看護の複数の学会と合同でシンポジウムを開催する。

(4) 第18回国際薬理学・臨床薬理学会議（WCP2018 京都）を開催する。

- ・第18回国際薬理学・臨床薬理学会議（第91回日本薬理学会年会、第39回日本臨床薬理学会学術総会と同時開催）
平成30年7月1日～6日 京都国際会議場

WCP2018 会長／第91回日本薬理学会特別年会長：成宮 周(京都大学・院・医)

WCP2018 副会長／第39回日本臨床薬理学会学術総会長：川合 眞一(東邦大学・医)

- ・IUPHAR Education Section サテライトシンポジウム

平成30年6月30日 京都国際会議場（予定）

(5) 発展途上国等の薬理学教育推進への協力について

発展途上国等の薬理学教育を推進する IUPHAR Education Project への援助を年間1万ドル、3年間の期限付きで行っている。

第1回は平成28年に、第2回は平成29年に送金済みで、平成30年が最終（第3回目）となる。

5 その他

1 会 員

- ・平成29年度末の会員数は平成28年度末の会員数4,596名から減少する見込みである。第91回年会在 WCP2018 と同時開催のため、平成29年秋口の入会者が例年より少ないこと、またシニアの退職に伴う退会は例年どおりである。
- ・新会員管理システムは平成29年8月に稼働した。平成30年より、学術集会参加登録機能を装備し、会員登録情報と連動させて参加登録手続きの利便性向上に努める。郵送中心であった各種申請や賞への応募等も規則との整合性を保ちながら電子申請への移行を進めている。

2 業務執行体制の整備と強化

- ・代表理事1名、業務執行理事3名による執行体制で常務理事会を構成し、次期理事長を加え様々な課題に取り組む。

3 社会に向けて

- ・公開講座を開催し、科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動を継続する。
- ・倫理委員会規定を制定し、科学者の行動規範に反する不正行為の防止に取り組んでいる。

4 事務局体制について

- ・財務状況の見直しを定期的に行うことを条件に2019年度以降も事務局を存続させる方向で新規職員を採用し、事務局業務の円滑な移行を進める。

V. 平成30年度収支予算

平成30年度収支予算

平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

(単位:円)

	30年度予算額	29年度予算額	増 減	備 考
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 特定資産運用益	(40,000)	(40,000)	(0)	
基金運用益	40,000	40,000	0	
② 受取会費	(48,890,000)	(50,100,000)	(△ 1,210,000)	
1 一般会員会費	20,000,000	20,800,000	△ 800,000	
2 学術評議員会費	18,870,000	19,280,000	△ 410,000	
3 賛助会員会費	10,020,000	10,020,000	0	
③ 事業収益	(185,660,400)	(75,475,800)	(110,184,600)	
1 学術集会費収益	(163,640,400)	(49,725,000)	(113,915,400)	
参加登録費	109,397,000	16,350,000	93,047,000	
器械展示料・予稿集広告料	21,066,400	16,578,000	4,488,400	
懇親会費	5,817,000	5,525,000	292,000	
ランチョンセミナー	27,360,000	11,272,000	16,088,000	
2 購読料	(820,000)	(881,600)	(△ 61,600)	
3 論文掲載料	(15,200,000)	(16,269,200)	(△ 1,069,200)	
4 論文別刷料	(1,300,000)	(2,900,000)	(△ 1,600,000)	
5 広告掲載料	(4,700,000)	(5,700,000)	(△ 1,000,000)	
④ 受取補助金等	(8,950,000)	(13,270,000)	(△ 4,320,000)	
1 指定正味財産からの振替額	8,000,000	9,000,000	△ 1,000,000	
2 学術集会補助金	950,000	4,270,000	△ 3,320,000	
⑤ 受取寄付金	(21,115,510)	(13,520,000)	(7,595,510)	
学術集会賛助金	21,115,510	13,520,000	7,595,510	
⑥ 雑収益	(30,000)	(410,000)	(△ 380,000)	
受取利息等	30,000	410,000	△ 380,000	
経常収益計	264,685,910	152,815,800	111,870,110	
(2) 経常費用				
① 事業費	(251,530,561)	(135,116,811)	(116,413,750)	
事務所借料	1,400,051	1,400,051	0	
給与手当	5,271,000	5,777,500	△ 506,500	
法定福利費	868,000	1,190,000	△ 322,000	
会場費	62,209,600	33,600,000	28,609,600	
旅費・通信交通費	43,209,179	5,965,100	37,244,079	
印刷費	10,989,000	10,400,200	588,800	
会議費	22,114,000	3,102,800	19,011,200	
謝金・その他	11,228,492	10,255,160	973,332	
懇親会費	7,650,000	5,900,000	1,750,000	
編集刊行費	31,956,000	31,956,000	0	
国際情報発信強化費	8,000,000	8,000,000	0	
学術事業協力費	9,785,381	1,350,000	8,435,381	
副賞	1,000,000	1,150,000	△ 150,000	
消耗品費	700,000	700,000	0	
業務委託費	29,992,200	12,500,000	17,492,200	
減価償却費	777,600	360,000	417,600	
租税公課	4,380,058	1,510,000	2,870,058	

(単位:円)

	30年度予算額	29年度予算額	増 減	備 考
② 管理費	(17,613,373)	(15,727,473)	(1,885,900)	
事務所借料	600,973	600,973	0	
給料手当	2,260,000	4,722,500	△ 2,462,500	
法定福利費	372,000	510,000	△ 138,000	
旅費・通信交通費	4,000,000	2,800,000	1,200,000	
印刷費	500,000	500,000	0	
会議費	700,000	500,000	200,000	
リース料	192,000	34,000	158,000	
消耗品費	1,000,000	1,000,000	0	
支払手数料	1,000,000	800,000	200,000	
臨時雇賃金	500,000	1,000,000	△ 500,000	
慶弔費	400,000	500,000	△ 100,000	
業務委託費	4,850,000	2,000,000	2,850,000	
租税公課	20,000	20,000	0	
減価償却費	518,400	540,000	△ 21,600	
選挙費	500,000	0	500,000	
雑 費	200,000	200,000	0	
経常費用計	269,143,934	150,844,284	118,299,650	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 4,458,024	1,971,516	△ 6,429,540	
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益等計				
当期経常増減額	△ 4,458,024	1,971,516	△ 6,429,540	
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2)経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 4,458,024	1,971,516	△ 6,429,540	
一般正味財産期首残高	160,809,867	158,838,351	1,971,516	
一般正味財産期末残高	156,351,843	160,809,867	△ 4,458,024	
II 指定正味財産増減の部			0	
① 受取補助金等				
受取補助金等	9,600,000	7,400,000	2,200,000	
②一般正味財産への振替額				
一般正味財産への振替額	△ 8,000,000	△ 9,000,000	1,000,000	
当期指定正味財産増減額	1,600,000	△ 1,600,000	3,200,000	
指定正味財産期首残高	1,715,595	3,315,595	△ 1,600,000	
指定正味財産期末残高	3,315,595	1,715,595	1,600,000	
III 正味財産期末残高	159,667,438	162,525,462	△ 2,858,024	

平成30年度収支予算書

平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

(単位:円)

	公益目的事業会計(内訳表)						法人会計	内部取引消去	合計
	公1 <small>学術集会等開催</small>	公2 刊行	公3 褒賞	公4 連携	共通	小計			
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
① 特定資産運用益	0	0	0	0	20,000	20,000	20,000		40,000
基金受取利息					20,000	20,000	20,000		40,000
② 受取会費	0	0	0	0	24,445,000	24,445,000	24,445,000		48,890,000
1 一般会員会費					10,000,000	10,000,000	10,000,000		20,000,000
2 学術評議員会費					9,435,000	9,435,000	9,435,000		18,870,000
3 賛助会員会費					5,010,000	5,010,000	5,010,000		10,020,000
③ 事業収益	9,480,000	22,020,000	0	154,160,400	0	185,660,400	0		185,660,400
1 学術集会費収益	9,480,000	0	0	154,160,400	0	163,640,400	0		163,640,400
参加登録費	4,430,000			104,967,000		109,397,000	0		109,397,000
器械展示料	1,900,000			16,574,400		21,066,400	0		21,066,400
予稿集広告料				2,592,000					
懇親会費	3,150,000			2,667,000		5,817,000	0		5,817,000
ランチョンセミナー				27,360,000		27,360,000	0		27,360,000
2 購読料	0	820,000	0	0	0	820,000	0		820,000
購読料		800,000				800,000	0		800,000
バックナンバー売上金		20,000				20,000	0		20,000
3 論文掲載料	0	15,200,000	0	0	0	15,200,000	0		15,200,000
和文誌掲載料		4,000,000				4,000,000	0		4,000,000
英文誌掲載料		10,000,000				10,000,000	0		10,000,000
抄録掲載料		1,200,000				1,200,000	0		1,200,000
4 論文別刷料	0	1,300,000	0	0	0	1,300,000	0		1,300,000
別刷料		1,000,000				1,000,000	0		1,000,000
著作権等使用料		300,000				300,000	0		300,000
5 広告掲載料	0	4,700,000	0	0	0	4,700,000	0		4,700,000
広告掲載料		4,700,000				4,700,000	0		4,700,000
④ 受取補助金等	950,000	8,000,000	0	0	0	8,950,000	0		8,950,000
1 指定正味財産からの振替額		8,000,000				8,000,000	0		8,000,000
2 学術集会補助金	950,000					950,000	0		950,000
⑤ 受取寄付金	1,450,000			19,665,510		21,115,510	0		21,115,510
学術集会賛助金	1,450,000			19,665,510		21,115,510	0		21,115,510
⑥ 雑収益	0	0	0	0	15,000	15,000	15,000		30,000
受取利息等					15,000	15,000	15,000		30,000
経常収益計	11,880,000	30,020,000	0	173,825,910	24,480,000	240,205,910	24,480,000		264,685,910
(2) 経常費用						0			
① 事業費	25,730,000	43,810,500	2,844,500	176,667,961	2,477,600	251,530,561			251,530,561
1 事務所借料	900,000	200,000	200,000	100,051		1,400,051			1,400,051
2 給料手当	3,840,000	830,500	370,500	230,000		5,271,000			5,271,000
3 法定福利費	558,000	124,000	124,000	62,000		868,000			868,000
4 会場費	4,432,000			57,777,600		62,209,600			62,209,600
5 旅費・通信交通費	1,530,000		500,000	39,679,179	1,500,000	43,209,179			43,209,179
6 印刷費	4,770,000			6,219,000		10,989,000			10,989,000
7 会議費	1,510,000		150,000	20,454,000		22,114,000			22,114,000
8 謝金・その他	4,540,000		500,000	6,188,492		11,228,492			11,228,492
9 懇親会費	3,650,000			4,000,000		7,650,000			7,650,000
10 編集・刊行費		31,956,000				31,956,000			31,956,000

11 国際情報発信強化費		8,000,000				8,000,000		8,000,000
12 学術事業協力費				9,785,381		9,785,381		9,785,381
13 副賞			1,000,000			1,000,000		1,000,000
14 消耗品費		700,000				700,000		700,000
15 業務委託費		1,100,000		28,892,200		29,992,200		29,992,200
16 減価償却費					777,600	777,600		777,600
17 租税公課		900,000		3,280,058	200,000	4,380,058		4,380,058
② 管理費							17,613,373	17,613,373
1 事務所借料						600,973		600,973
2 給料手当						2,260,000		2,260,000
3 法定福利費						372,000		372,000
4 旅費・通信交通費						4,000,000		4,000,000
5 印刷費						500,000		500,000
6 会議費						700,000		700,000
7 リース料						192,000		192,000
8 消耗品費						1,000,000		1,000,000
9 支払手数料						1,000,000		1,000,000
10 臨時雇賃金						500,000		500,000
11 慶弔費						400,000		400,000
12 業務委託費						4,850,000		4,850,000
13 租税公課						20,000		20,000
14 減価償却費						518,400		518,400
15 選挙費						500,000		500,000
16 雑費						200,000		200,000
経常費用計	25,730,000	43,810,500	2,844,500	176,667,961	2,477,600	251,530,561	17,613,373	269,143,934
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 13,850,000	△ 13,790,500	△ 2,844,500	△ 2,842,051	22,002,400	△ 11,324,651	6,866,627	△ 4,458,024
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	
当期経常増減額	△ 13,850,000	△ 13,790,500	△ 2,844,500	△ 2,842,051	22,002,400	△ 11,324,651	6,866,627	△ 4,458,024
2. 経常外増減の部								
(1)経常外収益								
中科目別記載								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用								
中科目別記載								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額								0
当期一般正味財産増減額	△ 13,850,000	△ 13,790,500	△ 2,844,500	△ 2,842,051	22,002,400	△ 11,324,651	6,866,627	△ 4,458,024
一般正味財産期首残高					103,968,611	103,968,611	56,841,256	160,809,867
一般正味財産期末残高	△ 13,850,000	△ 13,790,500	△ 2,844,500	△ 2,842,051	125,971,011	92,643,960	63,707,883	156,351,843
II 指定正味財産増減の部								
受取補助金	1,000,000	8,600,000				9,600,000	0	9,600,000
一般正味財産への振替額	0	△ 8,000,000				△ 8,000,000	0	△ 8,000,000
当期指定正味財産増減額	1,000,000	600,000				1,600,000	0	1,600,000
指定正味財産期首残高	300,000	1,415,595				1,715,595	0	1,715,595
指定正味財産期末残高	1,300,000	2,015,595				3,315,595	0	3,315,595
III 正味財産期末残高	△ 12,550,000	△ 11,774,905	△ 2,844,500	△ 2,842,051	125,971,011	95,959,555	63,707,883	159,667,438

VI. 部会選出新常置委員会委員一覧

平成 30, 31 年度
部会選出新常置委員一覧

(委員は五十音順, 次点者は得票順)

北部会	関東部会	近畿部会	西南部会
石井 邦明	赤羽 悟美	大野 行弘	岩崎 克典
谷村 明彦	天野 託	大矢 進	笹栗 俊之
新田 淳美	安西 尚彦	金子 周司	津田 誠
服部 裕一	池谷 裕二	高井 真司	中西 博
谷内 一彦	石川 智久	土屋浩一郎	宮田 篤郎
吉岡 充弘	石毛久美子	富田 修平	柳田 俊彦
	木内 祐二	西堀 正洋	
	五嶋 良郎	西山 成	
	小林 真之	橋本 均	
	武田 弘志	原 英彰	
	辻 稔	古屋敷智之	
	成田 年	吉栖 正典	
次点者	次点者	次点者	次点者
若森 実	関野 祐子	金井 好克	香月 博志
守屋 孝洋	三澤日出巳	川畑 篤史	筒井 正人
平 英一	伊藤 芳久	稲垣 直樹	岩本 隆宏
<u>岡村 信行</u>	上園 保仁	田熊 一徹	甲斐 広文
<u>東田 千尋</u>	亀井 淳三	徳山 尚吾	
<u>佐伯万騎男</u>	黒川 洵子	山田 清文	
	茶木 茂之	小澤光一郎	
	田中 光	矢部 千尋	

※ アンダーライン氏名は常置委員会選挙の得票数及び役員等選挙実施規定に基づき追加する委員。

※ 平成 29 年度総会資料の北部会選出新常置委員次点第 1 位の今井由美子氏は, 北部会より転出のため本一覧より除外

VII. 規則の変更

定款施行細則

現 行	変 更
<p>第1条 本会に入会しようとする者は、<u>学術評議員である推薦者の署名をそえて所定の入会申込書に必要事項を記入し、</u>会費とともに理事長あて提出しなければならない。学術評議員は、薬理学の研究に従事する者、薬理学に関し学識・経験を有する者を正会員として入会を推薦することができる。</p> <p>第29条 正会員のうち、<u>薬理学研究歴が6年制大学の卒業者においては7年以上、4年制大学の卒業者においては8年以上、それ以外の者においてはこれに準ずる期間の者で、</u>本会会員歴が原則として継続5年以上の者は、所定の用紙に必要事項を記載した新学術評議員候補者履歴・紹介書及び業績目録各1部に代表的論文2篇の別刷各1部を添えて、学術評議員としての資格を理事長に申請することができる。</p> <p>第41条 2 特別委員会の存続は、役員年度毎に理事会においてこれを決定する。ただし、賞等選考委員会、年会学術企画委員会<u>及び江橋賞選考委員会</u>は、毎役員年度これを設置する。</p>	<p>第1条 本会に入会しようとする者は、<u>所定の入会申請書に必要事項を記載し、学術評議員の推薦を受けて会費と</u>ともに理事長あて提出しなければならない。</p> <p>第29条 正会員のうち、本会会員歴が原則として継続5年以上の者は、所定の<u>申請書</u>に必要事項を記載した新学術評議員候補者履歴・紹介書及び業績目録各1部に代表的論文2篇の別刷各1部を添えて、学術評議員としての資格を理事長に申請することができる。</p> <p>第41条 2 特別委員会の存続は、役員年度毎に理事会においてこれを決定する。ただし、賞等選考委員会、年会学術企画委員会、江橋賞選考委員会<u>及び国際対応委員会</u>は、毎役員年度これを設置する。</p> <p>附 則 本細則は、平成29年7月7日より施行する。</p>

役員等選挙実施規定

現 行	変 更
<p>第18条 同数得票者について順位をつける必要のある場合は、年少者を上位とする。</p>	<p>第18条 同数得票者について順位をつける必要のある場合は、年少者を上位とする。ただし、<u>常置委員会委員選挙においては、女性、年少者の順に上位とする。</u></p> <p>附 則 本規定は平成29年12月8日より施行する。</p>

学術講演基金運用規定

現 行	変 更
<p>第2条 基金規定第4条第1項の年会に<u>関わる</u>援助は以下のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 運営に必要な経費の貸付 (2) 決算後、支出が収入を上回った場合の補填 (3) その他、理事会が適切と認める年会に関連した活動への支出 <p>2 基金は、前項の他に基金規定第4条第2項の事業に助成することができる。</p> <p>(採否及び支給)</p> <p>第5条 前条の委員会による採否及び援助支給額は、別に定める本運用規定運用細則に基づき、委員会で審議し、理事会で決定する。</p> <p><u>2 支給にあたっては、基金を取り崩して充当する。</u></p>	<p>第2条 基金規定第4条第1項の年会<u>開催を円滑に実施するための</u>援助は以下のとおりとする。</p> <p>(採否)</p> <p>第5条 前条の委員会による採否及び援助支給額は、別に定める本運用規定運用細則に基づき、委員会で審議し、理事会で決定する。</p> <p>(2項削除)</p> <p>附 則 本運用規定は平成29年7月7日より施行する。</p>

学術講演基金運用規定運用細則

現 行	変 更
<p>2. 運用規定第2条第1項第2号の援助にあたっては、次の各号による。</p> <p>(1) 申請者は、申請書類に理事会の承認を得た予算書並びに決算書類を添えて基金運用委員会に提出する。</p> <p>(2) 基金運用委員会は、援助の必要性及び妥当性を審議する。</p> <p>(3) <u>補填額は、欠損額の半額を超えないものとし、補填額は250万円を限度とする。</u></p>	<p>2. 運用規定第2条第1項第2号の援助にあたっては、次の各号による。</p> <p>(3) <u>基金運用委員会は援助の必要性を認めたときは、補填額を決定し、理事会に答申する。</u></p> <p>附 則 本細則は平成29年7月7日より施行する。</p>

年会会計運用規則

現 行	変 更
<p>第2条 年会会計は、<u>年会事業の収支及び年会基金で構成する。</u></p> <p>2 年会会計の運用は、別に定める<u>年会基金運用規定</u>、会計処理規則及び同運用細則に基づいて行わなければならない。</p> <p>第6条 年会会計は、原則として前条の予算に基づき執行する。</p> <p>2 年会開催後の決算において、支出が収入を上回った場合の補填は、別に定める<u>年会基金運用規定第2条第2号</u>による。</p>	<p>第2条 年会会計は、<u>公益目的事業の学術集会等開催事業会計に区分される。</u></p> <p>2 年会会計の運用は、別に定める<u>学術講演基金運用規定</u>、会計処理規則及び同運用細則に基づいて行わなければならない。</p> <p>第6条</p> <p>2 年会開催後の決算において、支出が収入を上回った場合の補填は、別に定める<u>学術講演基金運用規定第2条第2号</u>による。</p> <p>附 則 本規則は、平成29年7月7日より施行する。</p>

日本薬理学会 利益相反(COI)に関する指針

現 行	変 更
<p>3. 対象者</p> <p>利益相反(COI)状態が生じる可能性がある以下の対象者に対し、本指針が適用される。</p> <p>③ 本学会の役員(理事長、理事、監事)、学術集会・講演会責任者(年会長、部会長等)、各種委員会の委員長</p> <p>6. 実施方法</p> <p>(1) 会員の責務</p> <p>会員は研究成果を学術講演等で発表する場合、当該研究実施に関わる利益相反(COI)状態を発表時に、本学会のCOIマネジメント施行細則(以下「COI細則」という)に従い、所定の書式で適切に開示する。発表との関係で、本指針の目的に反するとの指摘がなされた場合には、理事会は利益相反(COI)を管轄する委員会(以下、利益相反(COI)委員会と略す)に審議を求め、その答申に基づき、妥当な措置方法を講ずる。</p> <p>(2) 役員等の責務</p> <p>本学会の役員(理事長、理事、監事)、<u>学術集会・講演会責任者(年会長、部会長等)</u>、各種委員会委員長、特定の委員会委員、および作業部会の委員は本学会に関わる全ての事業活動に対して重要な役割と責務を担っており、当該事業に関わる利益相反(COI)状況については、就任した時点で所定の書式に従い自己申告を行なうものとする。また、就任後、新たに利益相反状態が発生した場合には<u>規定</u>に従い、修正申告を行うものとする。</p>	<p>3. 対象者</p> <p>③ 本学会の役員(理事長、理事、監事)、学術集会・講演会責任者(年会長、部会長等)、各種委員会の委員長、<u>特定の委員会委員</u></p> <p>6. 実施方法</p> <p>(1) 会員の責務</p> <p>会員は研究成果を学術講演等で発表する場合、当該研究実施に関わる利益相反(COI)状態を発表時に、本学会のCOIマネジメント施行細則(以下「COI細則」という)に従い、所定の方法で適切に開示する。発表との関係で、本指針の目的に反するとの指摘がなされた場合には、理事会は利益相反(COI)を管轄する委員会(以下、利益相反(COI)委員会と略す)に審議を求め、その答申に基づき、妥当な措置方法を講ずる。</p> <p>(2) 役員・委員等の責務</p> <p>本学会の役員(理事長、理事、監事)、各種委員会委員長、<u>COI自己申告が課せられている特定の委員会(編集委員会、賞等選考委員会、江橋賞選考委員会等)</u>の委員、および作業部会の委員(以下役員・委員等という)は本学会に関わる全ての事業活動に対して重要な役割と責務を担っており、当該事業に関わる利益相反(COI)状況については、就任した時点で所定の<u>方法</u>に従い自己申告を行なうものとする。また、就任後、新たに利益相反状態が発生した場合にはCOI細則に従い、修正申告を行うものとする。<u>学術集会・講演会責任者(年会長、部会長等)</u>はこれに準ずる。</p> <p>附 則 本指針は2017年12月8日より施行する。</p>

日本薬理学会利益相反（COI）マネージメント施行細則

公益社団法人日本薬理学会（以下「本学会」という）は、本学会が行う全ての事業活動に対して、全ての参加者に日本薬理学会利益相反（COI）マネージメント施行細則（以下「本細則」という）を適用する。

第1条（COIで申告すべき項目と申告の基準）

- 1) 本学会学術集会などでの発表, 2) 本学会誌などでの発表, 3) 第4条第1項に定める役員・委員等, 4) 学術集会・講演会責任者（年会長・部会長等）の就任によりCOIの申告を必要とされる者の申告すべき項目と申告の基準は次表のとおりとする。

申告すべき項目	申告の基準
①企業や営利を目的とした団体の役員、顧問職の有無と報酬額	1つの企業・団体からの報酬額が年間100万円以上のもの
②株の保有と、その株式から得られる利益（1年間の本株式による利益）	1つの企業の1年間の利益が100万円以上のもの、あるいは当該株式の5%以上保有のもの
③企業や営利を目的とした団体から特許権使用料として支払われた報酬	1つの特許使用料が年間100万円以上のもの
④企業や営利を目的とした団体より、会議の出席（発表、助言など）に対し、研究者を拘束した時間・労力に対して支払われた日当、講演料などの報酬	1つの企業・団体からの講演料が年間合計50万円以上のもの
⑤企業や営利を目的とした団体がパンフレットなどの執筆に対して支払った原稿料	1つの企業・団体からの原稿料が年間合計50万円以上のもの
⑥企業や営利を目的とした団体が契約に基づいて提供する研究費	1つの企業・団体から、医学系研究（共同研究、受託研究、治験など）に対して、申告者が実質的に用途を決定し得る研究契約金で、実際に割り当てられた年間100万円以上のもの
⑦企業や営利を目的とした団体が提供する奨学（奨励）寄附金	1つの企業・団体から、申告者個人または申告者が所属する講座・分野または研究室に対して、申告者が実質的に用途を決定し得る寄附金で、実際に割り当てられた100万円以上のもの
⑧企業などが提供する寄附講座	実質的に用途を決定し得る寄附金で、実際に割り当てられた100万円以上のもの
⑨その他の報酬（研究とは直接に関係しない旅行、贈答品など）	1つの企業・団体から受けた報酬が年間5万円以上のもの

第2条（本学会学術集会などでの発表）

第1項（開示の範囲）

本学会学術集会などでの発表で開示する義務のあるCOI状態は、会員・非会員の別を問わず発表内容に関連する企業や団体に関わるものに限定し、次のような関係とする。

- 1 医学系研究を依頼し、または共同で行った関係（有償無償を問わない）
- 2 医学系研究において評価される療法・薬剤、機器などに関連して特許権などの権利を共有している関係
- 3 医学系研究において使用される薬剤・機材などを無償もしくは特に有利な価格で提供している関係
- 4 医学系研究について研究助成・寄付などをしている関係
- 5 医学系研究において未承認の医薬品や医療器機などを提供している関係
- 6 寄附講座などの資金提供者となっている関係

第2項（開示の方法）

（抄録提出時）

本学会の学術集会、講演会および市民公開講座などで発表・講演を行う場合には、演題応募や抄録提出時に、抄録提出時の前年より過去3年間における筆頭および責任発表者のCOI状態の有無を明らかにする。

（発表時）

発表時に明らかにするCOI状態については、日本薬理学会利益相反（COI）に関する指針（以下「本指針」という）「6 実施方法」に沿って、発表スライドの最初、あるいはポスターの最後に、「筆頭および責任発表者のCOI自己申告書」（様式1）に従って開示する。開示が必要なものは抄録提出時の前年より過去3年間とする。ただし、各々の開示すべき事項について、自己申告が必要な金額の基準は第1条のとおりとする。

第3条（本学会誌などでの発表）

第1項（開示の範囲）

著者全員が開示する義務のあるCOI状態は、投稿内容に関連する企業や団体に関わるものに限定し、第2条第1項に記したものと同一の関係とする。

第2項（開示の方法）

本学会の学会誌 Journal of Pharmacological Science および 日本薬理学雑誌 などでの発表を行う著者は、投稿時に投稿規定に定める様式（様式2）により、COI状態を明らかにしなければならない。この様式は論文末尾、References の直前の

場所に印刷される。規定されたCOI状態がない場合は、同部分に、「The authors indicated no potential conflicts of interest.」などの文言を入れる。投稿時に開示すべきCOIの項目および基準は、第1条のとおりとする。開示が必要なものは論文投稿時の前年から過去3年間のものとする。なお、申告の内容は論文査読者には開示しない。

第4条（役員・委員等）

第1項（開示の範囲）

本学会の役員（理事長、理事、監事）、各種委員会の委員長、COI自己申告が課せられている特定の委員会（編集委員会、賞等選考委員会、江橋賞選考委員会等）の委員（以下役員・委員等という）、学術集会・講演会責任者（年会長、部会長等）が開示するCOI状態は、本学会が行う事業に関連する企業や団体に関わるものに限定する。

第2項（開示の方法）

前項に定める役員・委員等は、新就任時に、新就任時の前年から過去3年間、就任後は1年ごとに本指針で定められたものを、「役員・委員等のCOI自己申告書」（様式3）を提出して自己申告する。様式3で開示するCOIの項目および申告の基準は、第1条のとおりとし、その算出期間を明示する。ただし、役員・委員等は、就任時の年に新たにCOI状態の変更が生じた場合には、2ヶ月以内に様式3を用いて申告する。学術集会・講演会責任者はこれに準ずる。

第5条（COI自己申告書の取扱い）

第1項：

本細則に基づいて学会に提出された様式2、様式3、および、そこに開示されたCOI状態（COI情報）は学会事務局において、理事長を管理者とし、個人情報として法令に則して厳重に保管・管理される。COI情報は、本指針に定められた事項を処理するために、理事会およびCOI委員会が随時利用できるものとする。その利用には、当該申告者のCOI状態について、疑義もしくは社会的・法的問題が生じた場合に、COI委員会の議論を経て、理事会の承認を得た上で、当該COI情報のうち、必要な範囲を学会内部に開示、あるいは社会へ公開する場合を含むものとする。様式2の保存期間は論文掲載後10年間とし、様式3の保管期間は任期終了後10年間とする。その後は理事長の監督下で廃棄される。ただし、様式2または様式3の保管期間中に、当該申告者について疑義もしくは社会的・法的問題が生じた場合は、理事会の決議により、様式2または様式3の廃棄を保留できるものとする。

第2項：

本学会の役員・関係役職者は、本細則に従い、提出された自己申告書をもとに、当該個人のCOI状態の有無・程度を判断し、学会としてその判断に従ったマネジメントならびに措置を講ずる場合、当該個人のCOI情報を随時利用できるものとする。しかし、利用目的に必要な限度を超えてはならず、また、上記の利用目的に照らし開示が必要とされる者以外の者に対して開示してはならない。

第3項：

COI情報は、第5条第2項の場合を除き、原則として非公開とする。COI情報は、学会の活動、委員会の活動等に関して、学会として社会的・道義的な説明責任を果たすために必要があるときは、理事会の議を経て、必要な範囲で学会の内外に開示若しくは公表することができる。

この場合、開示若しくは公開される利益相反情報の当事者は、理事会に対して意見を述べることができる。但し、開示若しくは公表について緊急性があつて意見を聞く余裕がないときは、その限りではない。

第4項：

非会員から特定の会員を指名しての開示請求（法的請求も含めて）があつた場合、妥当と思われる理由があれば、理事長からの諮問を受けてCOI委員会が個人情報の保護のもとに適切に対応する。COI委員会は開示請求書を受領してから30日以内に委員会を開催して可及的すみやかにその答申を行う。

第6条（COI委員会）

COI委員会は、理事会と連携して、利益相反（COI）に関する指針ならびに本細則に定めるところにより、会員のCOI状態が深刻な事態へと発展することを未然に防止するためのマネジメントと違反に対する対応を行う。委員にかかるCOI事項の報告ならびにCOI情報の取扱いについては、第5条の規定を準用する。COI委員会規定は、別に定める。

第7条（違反者への措置）

第1項：

本学会誌ならびに本学会学術集会などの発表予定者によって提出されたCOI自己申告事項について、疑義もしくは社会的・道義的問題が発生した場合、本学会として社会的説明責任を果たすためにCOI委員会が十分な調査、ヒアリングなどを行ったうえで適切な措置を講ずる。

理事長は、深刻なCOI状態があり説明責任が果たせない場合には、倫理委員会に諮問し、その答申をもとに理事会で審議のうえ、当該発表予定者の学会発表や論文発表の差止めなどの措置を講じることができる。理事長は、既に発表された後に疑

義などの問題が発生した場合には、事実関係を調査し、違反があれば掲載論文の撤回などの措置を講じ、違反の内容が本学会の社会的信頼性を著しく損なう場合には、本学会の定款にしたがい、会員資格などに対する措置を講ずる。

第2項:

本学会の役員・委員等について、就任前あるいは就任後に申告されたCOI事項に問題があると指摘された場合には、COI委員会委員長は文書をもって理事長に報告し、理事長は速やかに理事会を開催し、理事会として当該指摘を承認するか否かを議決しなければならない。当該指摘が承認された時、役員および各種委員会委員長にあつては退任し、また、その他の委員に対しては、当該委員と協議のうえ委嘱を撤回することができる。

第8条（不服申し立て）

第1項（不服申し立て請求）

第7条1項により、本学会事業での発表（学会誌、学術集会など）に対して違反措置の決定通知を受けた者ならびに、第7条2項により役員・委員長の退任あるいは委員委嘱の撤回を受けた候補者は、当該結果に不服があるときは、理事会議決の結果の通知を受けた日から7日以内に、理事長宛ての不服申し立て審査請求書を学会事務局に提出することにより、審査請求をすることができる。

審査請求書には、委員長が文書で示した撤回の理由に対する具体的な反論・反対意見を簡潔に記載するものとする。その場合、委員長に開示した情報に加えて異議理由の根拠となる関連情報を文書で示すことができる。

第2項（不服申し立て審査手続）

1. 不服申し立ての審査請求を受けた場合、理事長は速やかに倫理委員会を設置しなければならない。倫理委員会の運営は倫理委員会規定に定める。COI委員会委員は倫理委員会委員を兼ねることはできない。倫理委員会は審査請求書を受領してから30日以内に委員会を開催してその審査を行う。
2. 倫理委員会は、特別の事情がない限り、審査に関する第1回の委員会開催日から1ヶ月以内に不服申し立てに対する答申書をまとめ、理事長に提出する。
3. 倫理委員会の答申に基づく理事長の決定を最終決定とする。

第9条（細則の変更）

本細則は、社会的要因や産学連携に関する法令の改変などから、個々の事例によって一部に変更が必要となることが予想される。総務委員会は、本細則の見直しのための審議を行い、総務委員会・理事会の決議を経て、変更することができる。

附 則 第1条（施行期日）

本細則は、平成24年7月28日から2年間を試行期間とし、その後に完全実施とする。

第2条（本細則の改正）

本細則は、社会的要因や産学連携に関する法令の改正、整備ならびに医療および医学研究をめぐる諸条件の変化に適合させるために、原則として、数年ごとに見直しを行うこととする。

第3条（役員などへの適用に関する特則）

本細則施行のときに既に本学会役員などに就任している者については、本細則を準用して速やかに所要の報告などを行わせるものとする。

附 則 本細則は、平成27年5月30日より施行する。

附 則 本細則は、平成29年12月8日改正。ただし施行は、役員・委員等の申告すべき項目と申告の基準、及び申告の対象期間は平成30年に就任するものから適用する。

様式 1 - A 開示例

(学術講演時に申告すべき COI 状態がない場合)

<p style="text-align: center;">COI 開示</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 発表内容に関連し、過去 3 年間、開示すべき</p> <hr/> <p style="text-align: center;">COI 関係にある企業などはありません</p> <p>筆頭発表者： 東京 一郎</p> <p>責任発表者： 福岡 四郎</p>

※抄録提出時及び発表時に、抄録提出時の前年より過去 3 年間における筆頭および責任発表者の COI 状態を本様式で提出し、発表時には発表スライドの最初、あるいはポスターの最後に開示する。

様式 1 - B 開示例

(学術講演時に申告すべき COI 状態が有る場合)

<p style="text-align: center;">COI 開示</p> <p>筆頭発表者： 京都 次郎</p> <p>責任発表者： 大阪 三郎</p> <hr/> <p>筆頭および責任発表者の、過去 3 年間を一括して、COI 関係にある企業など</p> <p>講演料： A 製薬, B 製薬</p> <p>原稿料： C 製薬</p> <p>奨学寄附金： B 製薬, D 製薬</p>
--

※抄録提出時及び発表時に、抄録提出時の前年より過去 3 年間における筆頭および責任発表者の COI 状態を申告し、発表時に、発表スライドの最初あるいはポスターの最後に開示する。

※演題発表内容に関連し、筆頭および責任発表者の、開示すべき内容が過去 3 年間にある項目のみ記載する。

- ①顧問：
- ②株保有・利益：
- ③特許使用料
- ④講演料：
- ⑤原稿料：
- ⑥受託研究・共同研究費
- ⑦奨学寄附金
- ⑧寄附講座所属：
- ⑨贈答品などの報酬：

(申告項目と申告基準は、日本薬理学会利益相反 (COI) マネージメント施行細則(2017 年 12 月 8 日改定)第 1 条に基づく。)

様式 2(2017 年 12 月 8 日改定)

日本薬理学雑誌：自己申告による COI 報告書

著者名： _____

論文演題名： _____

(著者全員について、投稿時の前年から遡って過去 3 年間の期間を対象に、発表内容に関する企業・組織または団体との COI 状態を記載)

項目	該当の状況	有であれば、著者名：企業名などの記載
① 報酬額 1つの企業・団体から年間 100 万円以上	有 ・ 無	
② 株式の利益 1つの企業から年間 100 万円以上、あるいは当該株式の 5%以上保有	有 ・ 無	
③ 特許使用料 1つにつき年間 100 万円以上	有 ・ 無	
④ 講演料 1つの企業・団体から年間 50 万円以上	有 ・ 無	
⑤ 原稿料 1つの企業・団体から年間 50 万円以上	有 ・ 無	
⑥ 研究費・助成金などの総額 1つの企業・団体から、医学系研究（共同研究、受託研究、治療など）に対して、申告者が実質的に使途を決定し得る研究契約金で実際に割り当てられた 100 万円以上のものを記載	有 ・ 無	
⑦ 奨学（奨励）寄附金などの総額 1つの企業・団体からの奨学寄附金を共有する所属部局（講座、分野あるいは研究室など）に対して、申告者が実質的に使途を決定し得る研究契約金で実際に割り当てられた 100 万円以上のものを記載	有 ・ 無	
⑧ 企業などが提供する寄附講座 実質的に使途を決定し得る寄附金で実際に割り当てられた 100 万円以上のものを記載	有 ・ 無	
⑨ 旅費、贈答品などの受領 1つの企業・団体から年間 5 万円以上	有 ・ 無	

(本 COI 申告書は論文掲載後 10 年間保管されます)

(申告日) 年 月 日

Corresponding author (署名)

様式 3(2017年12月8日改定)

役員・委員等の COI 自己申告書 (就任時の前年から過去3年間申告, 就任後は1年ごとに申告)

申告期間: 20〇〇年〇月〇日~〇月〇日

公益社団法人 日本薬理学会 理事長 殿

申告者氏名: _____

所属(機関・部局)・職名: _____

本学会での役職名: 理事長 理事 監事 年会長 部会長 オブザーバー
 特定の委員会委員 学会職員 その他

A. 自己申告者自身の申告事項

1. 企業・法人や営利を目的とした団体の役員、顧問職の有無と報酬額 (有 ・ 無)

(1つの企業・団体からの報酬額が年間100万円以上のものを記載)

	企業・団体名	役職(役員・顧問など)	金額区分
1			
2			
3			

金額区分: ①100万円以上 ②500万円以上 ③1000万円以上

2. 株の保有と、その株式から得られる利益(最近1年間の本株式による利益) (有 ・ 無)

(1つの企業の1年間の利益が100万円以上のもの、あるいは当該株式の5%以上保有のものを記載)

	企業名	持ち株数	申告時の株値(一株あたり)	金額区分
1				
2				

金額区分: ①100万円以上 ②500万円以上 ③1000万円以上

3. 企業や営利を目的とした団体から特許権使用料として支払われた報酬 (有 ・ 無)

(1つの特許使用料が年間100万円以上のものを記載)

	企業・団体名	特許名	金額区分
1			
2			

金額区分: ①100万円以上 ②500万円以上 ③1000万円以上

4. 企業や営利を目的とした団体より、会議の出席(発表・助言)に対し、研究者を拘束した時間・労力に対して支払われた日当・講演料などの報酬 (有 ・ 無)

(1つの企業・団体からの講演料が年間合計50万円以上のものを記載)

	企業・団体名	金額区分
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

金額区分: ①50万円以上 ②100万円以上 ③200万円以上

5. 企業や営利を目的とした団体がパンフレットなどの執筆に対して支払った原稿料 (有 ・ 無)

(1つの企業・団体からの原稿料が年間合計 50万円以上のものを記載)

	企業・団体名	金額区分
1		
2		

金額区分：①50万円以上 ②100万円以上 ③200万円以上

6. 企業や営利を目的とした団体が契約に基づいて提供する研究費 (有 ・ 無)

(1つの企業・団体から、医学系研究(共同研究、受託研究、治験など)に対して、申告者が実質的に使途を決定し得る研究契約金で実際に割り当てられた年間100万円以上のものを記載)

	企業・団体名	研究費区分	金額区分
1			
2			
3			

研究費区分：①産学共同研究 ②受託研究 ③治験 ④その他

金額区分：①100万円以上 ②1000万円以上 ③2000万円以上

7. 企業や営利を目的とした団体が提供する奨学(奨励)寄附金 (有 ・ 無)

(1つの企業・団体から、申告者個人または申告者が所属する講座・分野または研究室に対して、申告者が実質的に使途を決定し得る寄附金で実際に割り当てられた年間100万円以上のものを記載)

	企業・団体名	金額区分
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

金額区分：①100万円以上 ②500万円以上 ③1000万円以上

8. 企業などが提供する寄附講座 (有 ・ 無)

(企業などからの寄附講座に所属している場合に記載)

	企業・団体名	寄附講座の名称	設置期間
1			
2			

*実質的に使途を決定し得る寄附金で実際に割り当てられた年間100万円以上のものを記載

9. その他の報酬(研究とは直接に関係しない旅行、贈答品など) (有 ・ 無)

(1つの企業・団体から受けた報酬が年間5万円以上のものを記載)

	企業・団体名	報酬内容	金額区分
1			
2			
3			

金額区分：①5万円以上 ②20万円以上

申告者の配偶者、一親等内の親族、または収入・財産的利益を共有する者の申告事項

該当する方の□にシをお付けください。

すべて申告事項無し：こちらにシをお付けの場合は下記項目の記入は必要ございません。

申告事項有り：下記の該当項目にご記入ください。無い項目には「無」にシを付けてください。

1. 企業や営利を目的とした団体の役員、顧問職の有無と報酬額 (有 ・ 無)

(1つの企業・団体からの報酬額が年間100万円以上のものを記載)

	該当者氏名	申告者との関係	
	企業・団体名	役職(役員・顧問など)	金額区分
1			
2			

金額区分：①100万円以上 ②500万円以上 ③1000万円以上

2. 株の保有と、その株式から得られる利益(最近1年間の本株式による利益) (有 ・ 無)

(1つの企業の1年間の利益が100万円以上のもの、あるいは当該株式の5%以上保有のものを記載)

	該当者氏名	申告者との関係		
	企業名	持株数	申告時の株値(一株あたり)	金額区分
1				
2				

金額区分：①100万円以上 ②500万円以上 ③1000万円以上

3. 企業や営利を目的とした団体から特許権使用料として支払われた報酬 (有 ・ 無)

(1つの特許使用料が年間100万円以上のものを記載)

	該当者氏名	申告者との関係	
	企業・団体名	特許名	金額区分
1			
2			

金額区分：①100万円以上 ②500万円以上 ③1000万円以上

誓約：私の利益相反に関する状況は上記の通りであることに相違ありません。私の日本薬理学会での職務遂行上で妨げとなる、これ以外の利益相反状態は一切ありません。なお、本申告書の内容は、社会的・法的な要請があった場合は、公開することを承認します。

申告日(西暦) 年 月 日

申告者署名 印

受付番号：

(本申告書は、任期満了、あるいは委員の委嘱撤回の日から10年間保管されます)

自己申告書の欄が足りない場合に記入出来なかったものについてご記入ください。(別紙)

申告者氏名： _____

＜申告事項＞

1. 企業や営利を目的とした団体の役員、顧問職の有無と報酬額
2. 株の保有と、その株式から得られる利益（就任時前年度1年間の本株式による利益）
3. 企業や営利を目的とした団体から特許権使用料として支払われた報酬
4. 企業や営利を目的とした企業や団体より、会議の出席（発表）に対し、研究者を拘束した時間・労力に対して支払われた日当（講義料など）
5. 企業や営利を目的とした団体がパンフレットなどの執筆に対して支払った原稿料
6. 企業や営利を目的とした団体が提供する研究費
7. 企業や営利を目的とした団体が提供する奨学（奨励）寄附金
8. 企業などが提供する寄附講座
9. その他の報酬（研究とは直接無関係な旅行、贈答品など）

申告事項 (A・B)	企業・団体名	適用（役職・特許名・研究費種別など） *2の場合は持ち株数および株面を記載	金額区分 (各頁を参照して下さい)

* 記載項目数が足りない場合はコピーしてください。

VIII. 理事会等報告

理事長：赤池 昭紀 以上 1名
理事：赤羽 悟美, 荒木 博陽, 池谷 裕二, 石井 邦明, 石毛久美子, 今井由美子, 今泉 祐治,
上園 保仁, 金井 好克, 高橋 健三, 橋本 均, 松木 則夫, 南 雅文, 宮田 篤郎,
山田 清文, 吉岡 充弘, 渡邊 裕司 以上 17名
監事：馬嶋 正隆, 三輪 聡一 以上 2名
オブザーバー：飯野 正光, 植田 弘師, 成宮 周 以上 3名

1. 理事会構成について

本理事会 2年目の平成 29年度は、赤池 昭紀理事長、赤羽 悟美財務委員長、今泉 祐治総務委員長、山田 清文編集委員長の各常務理事、吉岡 充弘副理事長、企業所属理事、公的研究機関所属理事、女性理事を含む 18名の理事と 2名の監事で理事会の運営がなされた。飯野 正光前理事長、植田 弘師第 90回年会長、成宮 周 WCP2018 会長兼第 91 回特別年会長がオブザーバーとして学会運営を支援した。

2. 学会の運営について

第 18 回国際薬理学臨床薬理学会議 (WCP2018) に向けて、WCP2018 組織委員会と協力し、国際会議の準備を進めること、本会議を契機として薬理学会の更なる活性化を図ることを平成 29 年度の重点目標として運営を行った。

- 1) 日本臨床薬理学会をはじめとした国内学会および製薬関連企業との協力の強化、2) 国際薬理学連合 (IUPHAR) およびアジア・オセアニア各国、米国、英国の薬理学会との連携の強化、3) 国際対応委員会を軸に理事会、各委員会が一致協力して、WCP2018 の成功と学会国際化に向けた活動の推進、4) 学会機関誌の更なる質の向上、特に、科学研究費国際情報発信強化補助金を用いた Journal of Pharmacological Sciences (JPS) の国際誌レベルアップ、5) 次世代の会の活動の充実、薬理学エデュケーター制度の導入などを検討し、若手研究者も含めた学会活動の促進が図られた。
- ・管理部門では、前期理事会での出版事業の外部委託などによる経費削減により、収支バランスが好転したことを受けて会員管理システムのリニューアルを行った。シン会員管理システムで諸種システムなどの一本化を図り、会員の各種申請手続きの利便性が向上した。2020 年度以降の事務局体制に関する方針を決定し、安定した学会運営体制を構築する。

3. 学会の在り方と薬理学の展開について

日本医学会の「医学研究の利益相反 (COI) マネージメントに関するガイドライン」の改定に合わせて、COI の申告書様式を改定し、それぞれの事業において COI 開示の周知に努めた。

1) 学術集会、講演会等の開催事業について

- ・第 90 回年会 (植田 弘師年会長) は、『出島に学ぶ—Therapeutic Innovation from Dejima—』をテーマとし、平成 29 年 3 月 15 日から 17 日まで長崎ブリックホール、長崎新聞文化ホールの二会場で開催された。新しい領域に挑み続け、それらを受け入れ進化している薬理学研究を国内外に広く示す方針のもと、性別や国籍、年齢などにとらわれず、次世代の薬理学を担う多くの研究者が溶け込みやすく、自身のホームグラウンドと感じられる年会となるように企画された内容であった。地方開催のため集客が難しい反面、会場費を低く抑えられる地方開催ならではの利点と、多数のランチョンセミナーの獲得により、他の学術集会の赤字を補う収支状況で決算した。プレナリーレクチャーは森 和俊氏 (京都大学大学院理学研究科・教授)、内外の研究者 9 名の特別講演、特別招待講演は理化学研究所の高橋 政代氏とミシガン大学の Daniel Goldman 教授であった。JPS と ASCEPT の講師交換プログラム、日本生理学会、日本臨床薬理学会、日本医学会連合の各団体との共催シンポジウム、その他に多彩な企画によるシンポジウムが展開された。第 90 回日本薬理学会年会より、看護職を対象とした『看護薬理学教育セミナー』がスタートし、今後も看護教育との連携を図る。
- ・年会開催最終日に、科研費補助金による公開講座が『依存性薬物の乱用とその実態—教育と行政の取り組み—』のテーマで開催された。
- ・地方部会は山形県、東京都の 2 開催、愛知県、大阪府、鹿児島県の各会場で地域特性を生かした企画で 6 回開催された。
- ・薬理学振興助成事業の公開講座は第 68 回北部会、第 131 回近畿部会、第 70 回西南部会と連携して 3 回開催された。

2) 学会誌等刊行物の刊行事業について

- ・日薬理誌は、海外会員への情報発信強化のため 2018 年 1 月号から英文抄録を併記する取り組みを開始した。
- ・Japanese Pharmacological Sciences (JPS) の平成 29 年の論文採択率は 27% であった。国内論文は 64%、海外論文は 13% である。JPS 査読者の質の向上と、掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で創設された JPS 優秀査読者賞の平成 29 年度受賞者 2 名を決定した。

3) 研究の奨励及び研究業績の表彰事業について

- ・江橋節郎賞選考委員会の答申に基づき萩原 正敏教授（京都大学大学院医学研究科）を第 11 回江橋節郎賞受賞者に決定した。
- ・第 33 回学術奨励賞受賞者 3 名及び JPS 優秀論文賞受賞論文 2 編を決定した。JPS 優秀論文賞は、過去 3 年間に掲載された原著論文の中で引用回数が多い順に約 10 編を選び、その中から選考されている。
- ・年会優秀発表賞（第 90 回年会）は、10 名に贈呈された。

4) 薬理学に関する研究及び調査について

- ・優れた薬理学教育者を育成・支援することを目的に薬理学エデュケーター制度の設置を決定し、ワーキンググループを編成して実施要件等の検討を行っている。
- ・薬理学エデュケーター制度導入や新しい分野の取り込みの一環で、本会で使用されているカテゴリー表に新たな項目を追加することおよびカテゴリー表の再編に向けて、所管委員会で検討を行っている。

5) 内外の関連学術団体との連携及び協力事業について

- ・ASCEPT（オーストラリア・ニュージーランド薬理学会）の Mary Chebib 氏を第 90 回年会（2017 年 3 月開催）に招へいし、講演が行われた。2017 年 12 月開催の ASCEPT 年会（ブリスベン）に杉山 雄一氏（理研）を派遣した。
- ・2017 年 4 月開催の ASPET 年会（シカゴ）において、ASPET（米国薬理学会）と JPS（日本薬理学会）との講師交換プログラムとして飯野正光国際対応委員長が講演を行った。
- ・IUPHAR Nomenclature Committee（NC-IUPHAR）の会合（2017 年 10 月 13 日～15 日、パリ）に貝淵 弘三教授（名古屋大学）が参加した。
- ・IUPHAR Executive Committee が 10 月 27 日と 28 日にイタリアのリミニで開催され、IUPHAR の理事会に 2nd Vice President の飯野正光国際対応委員長が出席し、WCP2018 の準備状況について報告を行った。
- ・2017 年 11 月開催の韓国薬理学会（ソウル）に飯野正光国際対応委員長が参加し講演した。
- ・Pharmacology2017（英国薬理学会、2017 年 12 月開催）の日英ジョイントシンポジウムに成宮 周 WCP2018 会長と石井 優教授（大阪大学）がシンポジストとして参加した。
- ・IUPHAR Education Project（発展途上国等の薬理学教育を推進する目的のプログラム）に 3 年間の期限付き財政的援助の第 2 回目として平成 29 年度分 1 万ドルを送金した。
- ・APFP（Asia Pacific Federation of Pharmacologists）のホームページリニューアルを支援した。

4. 役員候補者選挙、役員選考委員会による追加理事の選出

第 90 回年会の学術評議員会出席学術評議員により役員選挙が行われた。選出された候補者は役員選考委員会選出理事候補者とともに、平成 30 年 3 月の総会で選任された後、就任する。

5. 第 93 回（2020 年）年会長候補者の決定

第 93 回日本薬理学会年会長として横浜市立大学大学院医学研究科の五嶋 良郎教授が提案され、承認された。

6. 名誉会員の推薦

平成 30 年度に就任する名誉会員候補者 7 名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した。

荒木 博陽， 今泉 祐治， 岡 淳一郎， 川西 徹， 齊藤亜紀良， 玉置 俊晃， 三輪 聡一

7. 永年会員の推薦

平成 30 年度に就任する永年会員候補者 8 名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した。

大島 武史， 小野 秀樹， 川面 博， 竹内 孝治， 辻 正義， 丹羽 正美， 牧 栄二， 山本 経之

8. 平成 30 年度薬理学振興助成事業決定について

1) 市民公開講座， 2) 次世代薬理学セミナー（仮称）， 3) 看護薬理学カンファレンス 2018， 4) 「日本の薬理学研究の世界貢献（仮称）」パンフレット作成， の各助成事業及び助成額を決定した。

9. 平成 29 年度の事業報告及び決算を承認し、学術評議員会及び総会に付議する。平成 30 年度事業計画及び予算は、平成 29 年 12 月 8 日開催の理事会の承認、決定を経て内閣府に提出した。

10. 平成 28 年 12 月から平成 29 年 11 月までの新規入会者 281 名を承認した。平成 30 年度からシニア割引適用を希望する 8 名を承認した。

平成 30, 31 役員年度 役員等選挙報告

役員（理事・監事）選挙

1. 役員候補者被選挙権者の推薦

平成 28 年 10 月 1 日：学会ホームページ会員専用サイトに被選挙権有資格者名簿公示，Web 推薦受付開始
10 月末日：推薦締切

11 月 1 日：役員候補者被選挙権者確定 開票管理者 今泉 祐治 総務委員長
伊藤 芳久 総務委員

2 名以上からの推薦を受け役員候補者被選挙権者となった者	北	関東	近畿	西南	
	17	86	73	25	
	推薦権行使者数				311
	推薦権行使率				24.3(%)

2. 役員候補者選挙（第一段選挙：部会毎の電子投票）

平成 28 年 11 月 15 日： 会員専用サイトに被選挙権者名簿公示，投票サイトオープン

12 月 9 日： 投票締切

20 日： 4 部会一斉開票（候補者決定）

26 日： 選挙結果を学会ホームページの会員専用サイトで通知

	北	関東	近畿	西南	総計
投票者数	69	239	205	81	594
投票率	47.3	43.6	48.0	51.9	46.5(%)
(前回)	(63.5)	(48.8)	(55.5)	(57.0)	(53.6)

開票管理者 北 部会： 服部 裕一 総務委員， 今泉 祐治 総務委員長
関東部会： 梅村 和夫 部会長， 今泉 祐治 総務委員長
近畿部会： 金子 周司 部会長， 今泉 祐治 総務委員長
西南部会： 荒木 博陽 部会長， 今泉 祐治 総務委員長

【Web 選挙結果】（50 音順）

理事候補者

北 部会： 石井 邦明， 福永 浩司， 谷内 一彦， 吉岡 充弘 以上 4 名
関東部会： 赤羽 悟美， 安西 尚彦， 池谷 裕二， 石毛久美子， 上園 保仁，
木内 祐二， 五嶋 良郎， 武田 弘志， 田中 光， 成田 年 以上 10 名
近畿部会： 金井 好克， 金子 周司， 西堀 正洋， 西山 成， 橋本 均，
原 英彰， 古屋敷智之， 矢部 千尋， 山田 清文， 吉栖 正典 以上 10 名
西南部会： 植田 弘師， 笹栗 俊之， 武田 泰生， 柳田 俊彦 以上 4 名
監事候補者 伊藤 芳久， 岸岡 史郎， 倉智 嘉久， 中西 博， 服部 裕一， 三澤日出巳 以上 6 名

3. 役員選挙（第二段選挙：年会時学術評議員会出席者による投票）

平成 29 年 2 月号： 日薬理誌（149：2）に役員候補者名簿掲載。

平成 29 年 2 月 16 日： 学会ホームページに役員候補者名簿公示。

3 月 15 日： 年会時学術評議員会で理事・監事選挙実施，役員選考委員会を開催し，追加理事選出。

【年会時学術評議員会選挙及び役員選考委員会結果】（50 音順）

理事候補者

北 部会： 谷内 一彦， 吉岡 充弘 以上 2 名
関東部会： 安西 尚彦， 池谷 裕二， 石毛久美子， 上園 保仁， 五嶋 良郎 以上 5 名
近畿部会： 金井 好克， 金子 周司， 西堀 正洋， 橋本 均， 山田 清文 以上 5 名
西南部会： 植田 弘師， 笹栗 俊之 以上 2 名
役員選考委員会選出： 吉川 公平， 木村 英雄， 戸村 裕一， 福永 浩司， 矢部 千尋 以上 5 名
監事候補者 伊藤 芳久， 服部 裕一 以上 2 名

常置委員会委員選挙

役員候補者選挙 2. と同時に投票及び開票を行った（投票数，投票率は役員候補者選挙と同じ）。

IX. 委員会等報告

(各委員会委員名は五十音順、敬称略)

総務委員会報告

委員長：今泉 祐治

委員：伊藤 芳久、荻田喜代一、土屋浩一郎、中西 博、服部 裕一、松木 則夫、南 雅文、矢部 千尋

本年度は11月3日に委員会を開催し、その他にメール会議を行った。

1. 委員会は、以下の規則の変更を検討し、理事会に提案した。また、事務局に雇用される職員に適用される「事務職員規則」、「定年職員の再雇用に関する規則」の改定を行った。
 - 1) 定款施行細則は、①入会申請の際の推薦学術評議員の署名に代わり、電子的方法とする第1条の変更、②新学術評議員の申請資格を本会会員歴が原則として継続5年以上の者とする第29条の変更、③特別委員会に国際対応委員会を追加する第41条の変更である。
 - 2) 役員等選挙実施規定は、常置委員会へ女性委員が継続的に参画できるよう、第18条に「同数得票者について順位をつける必要のある場合は、年少者を上位とする。ただし、常置委員会委員選挙においては、女性、年少者の順に上位とする。」下線部を追加する変更である。
 - 3) 「学術講演基金運用規定」及び「学術講演基金運用規定運用細則」は、年会開催を円滑に実施するための援助として、年会会計が赤字で決算するときの補填上限額（現行250万円）の設定を廃止し、援助の妥当性を審議する基金運営委員会が補填額を決定する変更である。
 - 4) 年会会計運用規則は、年会会計が1)公益目的事業の学術集会等開催事業会計に区分されること、年会会計を援助する基金は学術講演基金であることを明記する変更である。
2. 利益相反（COI）自己申告について
日本医学会 COI 管理ガイドラインが2017年3月に改訂されたことに伴い、「利益相反に関する指針」、「利益相反マネジメント施行細則」及び申告様式の変更案を理事会に提案した。主要な変更点は、1)学術集会等の抄録提出時、学術雑誌への論文投稿時、役員・委員等就任時それぞれの前年より過去3年間（従来1年間）のCOI状態を申告すること、2)会議出席や講演料等に対する報酬、及び原稿料等に対する報酬それぞれの申告基準額が、1つの企業・団体から年間合計50万円以上（従来100万円以上）のものを申告すること、3)本来申告すべきであった学術集会等の抄録提出時の申告を実施すること、である。施行については、1)役員・委員等が申告すべき項目、申告の基準及び申告の対象期間は、平成30年に就任するものから適用する、2)学術集会等の発表については、年会は第92回年会から、部会は第133回近畿部会から適用する（申告様式は規則の変更頁を参照）。
3. 新名誉会員・新永年会員の推薦について
名誉会員推薦規定及び同運用基準、永年会員推薦規定及び同運用基準に基づき、平成30年度に就任する名誉会員候補者7名、永年会員候補者8名が推薦要件を充足することを確認し、理事会に報告した。
4. シニア会員申請について
9月1日より新会員管理システムによるシニア会員のWeb申請受け付けを開始した。日薬理誌10月号にシニア割引申請受付の案内と申請書様式を掲載し、会員への周知に努めた。委員会は平成30年度会費よりシニア割引適用を希望する者について審査を行い、申請者8名全員にシニア割引を適用できることを確認し、理事会に報告した。
5. 平成30年就任の常置委員次点者について
平成30年に就任する北部会選出常置委員は、役員就任、部会異動等により繰り上がる次点者が不足することが見込まれるため、平成28年実施の常置委員選挙結果に追加する次点者を確認し、理事会の承認を得た。
6. 新会員管理システム導入について
8月1日に稼働した新会員管理システムの利用には、ユーザーIDとパスワードでログインし、アカウントの取得が必要となる。これらユーザーIDとパスワードは7月末までに会員宛に郵送した。今後、学術集会参加登録、各種申請（入会申請、学生割引適用申請、シニア割引申請、新学術評議員申請等）、選挙投票は本システムにより行う。所属・部門・個人の各レベルで検索条件を会員が指定し、画面に対象の会員を表示するWeb会員名簿の採用により、これまで印刷体であった会員名簿は平成28年度版をもって終了した。

利益相反（COI）委員会報告

委員長：今泉 祐治

委員：伊藤 芳久、荻田喜代一、土屋浩一郎、中西 博、服部 裕一、松木 則夫、南 雅文、矢部 千尋

本年度は11月3日に委員会を開催した。

日本医学会のCOIマネジメントガイドライン2015年改定版に則り提出された理事会構成員、部会長、日薬理誌の筆頭著者、事務局職員及び日薬理誌筆頭著者の利益相反（COI）申告書は、いずれの申告にも問題が無いことを確認した。

財務委員会報告

委員長：赤羽 悟美

委員：石澤 啓介，今井由美子，岡 淳一郎，島添 隆雄，武田 弘志，谷内 一彦，吉栖 正典

委員会は平成 29 年度の決算処理を行い，平成 30 年度の予算案を編成した。

1. 平成 29 年度決算について

平成 29 年度の収入は，前年度より約 175 万円減少の 1 億 5,927 万 8,781 円，支出は前年度より約 1,420 万円減少の 1 億 4,961 万 3,780 円となり，支出の減少が収入の減少を大きく上回ったため，平成 28 年度の約 278 万円の赤字決算から一転し，約 966 万円の黒字決算となった。その要因は，1) 第 90 回年会から交付金全額と収支差額約 480 万円の学会会計への繰り入れにより，部会開催等の学術集会における赤字を補填する形となったこと，2) 英文誌の論文掲載料減少に伴い，出版業務委託料が大幅減少したこと，による。

会費収入は減少した。その理由として，3 月に開催される年会で演題発表のため秋口の新入会者が増えることで毎年一定程度の入会者数を維持してきたが，平成 30 年の年会開催が 7 月に WCP2018 と同時開催となったため入会者数が大きく減少したこと，賛助会員会費が減少したことが挙げられる。刊行事業収入は，購読料，論文掲載料，論文別刷料，広告掲載料の全てで減少したが，国際情報発信の科学研究費補助金が採択されたことと JPS 論文掲載料が減少したことによる出版業務委託料の大幅減少のため，編集刊行事業の赤字は改善された。褒賞，連携の各事業はそれぞれの基金を取り崩して事業を行い，例年並みの支出である。

管理費では，平成 29 年 8 月から新会員管理システムに移行したため，会員管理の業務委託料が減少した。

2. 平成 30 年度予算について

平成 30 年度予算は，平成 29 年度の決算見込み額に基づいて編成している。

平成 30 年度は第 18 回国際薬理学・臨床薬理学会議（WCP2018）の開催があり，WCP2018 の収支は連携事業として本学会会計に組み込むため，例年より事業規模が 1 億円以上拡大する。会費収入は第 92 回年会（平成 31 年 3 月開催）の開催により，秋口の入会者が例年どおり増えることが見込まれるが，漸減傾向には変化はない。WCP2018 に向けて「連携」の海外旅費が増える見込みであるが，その他の事業収支はほぼ例年どおりである。平成 30 年度の収入は平成 29 年度予算額より約 1 億 1,187 万円増加の約 2 億 6,468 万円，支出は平成 29 年度予算額より約 1 億 1,830 万円増加の約 2 億 6,914 万円であり，収支差額約 445 万円の赤字予算編成となった。

3. 遊休財産額の適正化に向けて

平成 28 年度決算結果によると，本会の遊休財産額が保有上限額に近いこと，今後の学会運営次第では，公益社団法人が遵守すべき財務三基準の一つである『遊休財産額は遊休財産上限額を超えてはならない』という遊休財産規制に抵触する可能性があることが判明した。本会の薬理学振興基金や薬理学国際基金は内閣府の指定する遊休財産に含まれるため，薬理学振興基金のうち 1,000 万円を遊休財産から控除できる財産（控除対象財産）である薬理学基金に，繰り入れることを理事会に提案することを決定した。

※「遊休財産額は，公益目的事業や法人会計のために，現に使用されておらず，引き続きこれらのために使用されることが見込まれない財産の合計額」のことで，当該事業年度における公益目的事業の費用額が遊休財産の保有上限額となる。

4. 出版業務委託契約書，同覚書契約更改（案）検討の件

和文誌出版業務の委託契約が平成 29 年度末で終了するにあたり，カラー頁代に関わる契約内容の変更が委託先より申し入れられたことを受けて，検討を行った。毎号の印刷代の明細から年間のカラー印刷にかかった実費を請求してもらおう方向で調整を行い，本方針に基づく契約書変更案，覚書変更案を作成し，理事会に提出した。財務委員会は，委託先より提出される毎号の印刷代の明細により，適正な請求であるかどうかをチェックする。

5. その他検討事項として，財務委員を協力員として各委員会へ派遣し，委員会事業に伴う財務的なアドバイスをすることについて検討を行った。理事会には協力員の派遣ではなく，各委員会と財務委員会の委員を兼務してもらうこととし，次期の委員会編成には，事業を行う委員会（編集，広報，研究推進，企画教育，年会学術企画，国際対応各委員会）に，財務委員を兼務する委員を必ず置くように申し送ることを決定した。

編集委員会報告

委員長(JPS Editor-in-Chief)：山田 清文

委員(JPS Associate Editors)：石毛久美子，上園 保仁，大野 行弘，兼松 隆，黒川 洵子，笹栗 俊之，田熊 一徹(Press Editor) 田中 光，津田 誠，西堀 正洋，松本 欣三

I. JPS投稿・審査状況（投稿数，採択率，Impact Factor）

1. 受付論文数（2017年1月1日～12月31日受付．Reviewを含む）

1) 分野別：（ ）内は海外からの内数

1 生理活性物質	15 (14)
2 受容体・チャネル・輸送系	20 (9)
3 細胞内情報伝達	29 (26)
4 生化学薬理	47 (39)
5 末梢神経薬理	0 (0)
6 心血管薬理・血液	33 (15)
7 中枢神経薬理	32 (15)
8 呼吸器薬理	5 (5)
9 腎薬理	12 (6)
10 消化器薬理	11 (9)
11 平滑筋薬理	3 (1)

12 骨・歯科薬理	14 (8)
13 内分泌薬理	7 (4)
14 臨床薬理	12 (10)
15 免疫薬理・炎症	21 (15)
16 化学療法	9 (7)
17 毒科学	6 (4)
18 Natural medicine materials	15 (12)
19 幹細胞薬理	0 (0)
20 疼痛薬理	2 (2)
21 生物製剤薬理	10 (5)
合計 303(206)	

2) 国別

China 144, Japan 97, Korea 11, Iran 8, India 6, USA 4, Taiwan 3, Thailand 3, Turkey 3, Brazil 2, Indonesia 2, Nigeria 2, Tunisia 2, Argentina 1, Bangladesh 1, Canada 1, France 1, Georgia 1, Ghana 1, Greece 1, Italy 1, Jordan 1, Kuwait 1, Morocco 1, Palestinian 1, Poland 1, Romania 1, Serbia 1, Togo 1

2. 採択率（投稿年別）

2009年 47%，2010年 49%，2011年 50%，2012年 50%，2013年 48%，2014年 42%，2015年 32%，2016年 34%，2017年 27%（国内論文 64%，海外論文 13%）

*注：2018年1月10日現在，審査中 51件（著者改訂中 14件）。

3. Impact Factor（Journal Citation Report JCR[®] 発表）

2008年：2.599，2009年：2.176，2010年：2.260，2011年：2.082，2012年：2.150，2013年：2.114，2014年：2.360，2015年：2.106，2016年：2.415（国内発行の自然科学系250誌中28位）

II. JPS刊行状況：本資料の「事業報告」の項に記載

III. JPS審議・決定，報告事項

1. 編集体制について

国内12名，海外9名の編集体制であったが，昨年就任したDr. Archibald McNicol (Manitoba University, Canada)のご逝去，また，Dr. Piyarat Govitrapong (Mahidol University, Thailand) の任期（-2017.5.31）ならびにDr. Curtis Okamoto (University of South California, US) の任期（-2017.6.30）が満了した．新たにDr. Naoki Yoshimura (University of Pittsburgh, US) を海外Editor に選任し（任期：2017.11.1-2021.10.31）海外Editorは7名となった．

2. JPS 優秀論文賞について

JPS優秀論文賞規定およびJPS優秀論文賞受賞論文選考規定に従って，平成26年度から平成28年度掲載分の原著論文の中から，第22回JPS優秀論文賞受賞論文2編を決定した．

・ Inhibition of Autophagy Contributes to Melatonin-Mediated Neuroprotection Against Transient Focal Cerebral Ischemia in Rats

Yongqiu Zheng, Jincai Hou, Jianxun Liu, Mingjiang Yao, Lei Li, Bo Zhang, Hua Zhu, and Zhong Wang
Vol. 124, No. 3 pp. 354-364 (2014)

・ Assessment of Testing Methods for Drug-Induced Repolarization Delay and Arrhythmias in an iPS Cell-Derived Cardiomyocyte Sheet: Multi-site Validation Study

Yuji Nakamura, Junko Matsuo, Norimasa Miyamoto, Atsuko Ojima, Kentaro Ando, Yasunari Kanda, Kohei Sawada, Atsushi Sugiyama, and Yuko Sekino
Vol. 124, No. 4 pp. 494-501 (2014)

3. JPS 優秀査読者賞について

JPS優秀査読者賞規定およびJPS優秀査読者選考規定に従って，2017年度JPS優秀査読者2名を決定した．

・ Hye Sun Kim (Seoul National University Department of Pharmacology, College of Medicine, Korea)
・ 吾郷 由希夫（大阪大学大学院 薬学研究科）

2017-2018 年度 Editor および Advisor の担当分野

分野	Editor	Advisor
01 生理活性物質	石毛, 上園, 大野, 兼松, 黒川, 笹栗, 田熊, 田中, 津田, 西堀, 松本, Lawrence, Wong	安西尚彦, 稲垣直樹, 石橋 仁, 上野 晋, 香月博志, 葛巻直子, 亀井淳三, 小山 豊, 近藤一直, 田中宏幸, 田中芳夫, 西山 成, 福永浩司, 柳田俊彦, Kim
02 受容体・チャネル・輸送系	石毛, 上園, 大野, 兼松, 黒川, 田熊, 田中, 津田, 西堀, 松本, Bhuiyan, Lawrence, Wong	安西尚彦, 稲垣直樹, 磯濱洋一郎, 石橋 仁, 上野 晋, 内田信也, 香月博志, 葛巻直子, 亀井淳三, 小山 豊, 酒井規雄, 武田泰生, 田中芳夫, 西山 成, 平野勝也, 柳田俊彦, Bathgate, Mallei, Musazzi, Razzaque, Satayavivad, Uddin
03 細胞内情報伝達	石毛, 上園, 兼松, 笹栗, 田熊, 田中, 津田, Han	石橋 仁, 香月博志, 木澤靖夫, 亀井淳三, 小山 豊, 酒井規雄, 武田泰生, 平野勝也, 福永浩司, 柳田俊彦, Bathgate, Bian, Chong, Kim, Lu, Mallei, Musazzi, Shen, Vincent, Zhou
04 生化学薬理	石毛, 兼松, 笹栗, 田熊, 田中, 西堀, Bhuiyan, Wong	稲垣直樹, 内田信也, 小山 豊, Bathgate, Chong, Kim, Mallei, Musazzi, Razzaque, Sun, Uddin
05 末梢神経薬理 (自律神経・運動神経・局所麻酔を含む)	上園, 田中	稲垣直樹, 石橋 仁, 磯濱洋一郎, 亀井淳三, 竹内正吉, 田中芳夫, 松本直樹, 柳田俊彦
06 心血管薬理・血液	黒川, 笹栗, 田中, 西堀, Bhuiyan	安西尚彦, 梅村和夫, 近藤一直, 田中芳夫, 筒井正人, 西山 成, 平野勝也, 福永浩司, 松本直樹, Bian, Razzaque, Satayavivad, Uddin
07 中枢神経薬理	石毛, 上園, 大野, 田熊, 津田, 松本, Han, Lawrence, Suh, Wong	荒木博陽, 石橋 仁, 岩崎克典, 上野 晋, 香月博志, 葛巻直子, 亀井淳三, 小手川勤, 小山 豊, 酒井規雄, 千堂年昭, 武田泰生, 徳山尚吾, 福永浩司, 柳田俊彦, Chong, Kim, Lu, Mallei, Musazzi, Satayavivad, Shen, Parish, Vincent, Zhou
08 呼吸器薬理	田熊	稲垣直樹, 磯濱洋一郎, 亀井淳三, 木澤靖夫, 田中宏幸, 松本直樹, Satayavivad
09 腎薬理	大野, 笹栗, Bhuiyan	荒木博陽, 安西尚彦, 千堂年昭, 西山 成, 松本直樹, 藤田朋恵, Razzaque, Uddin
10 消化器薬理	上園	Satayavivad, 竹内正吉
11 平滑筋薬理	笹栗, 田中	木澤靖夫, 竹内正吉, 田中芳夫, 平野勝也
12 骨・歯科薬理	兼松, 笹栗, 田熊, 松本	大谷啓一, 戸荻彰史
13 内分泌薬理	Govitrapong	戸荻彰史, 徳山尚吾, 西山 成, 福永浩司, 柳田俊彦, Bathgate
14 臨床薬理	笹栗, 山田	荒木博陽, 安西尚彦, 内田信也, 梅村和夫, 小手川勤, 近藤一直, 千堂年昭, 武田泰生, 徳山尚吾, 坪井正博, 藤田朋恵, 松本直樹
15 免疫薬理・炎症	笹栗, 西堀, Xu	稲垣直樹, 田中宏幸, Chong, Shen, Sun
16 化学療法	上園, 笹栗	武田泰生, 坪井正博, Sun
17 毒科学	大野, 黒川, 田熊, Han	上野 晋, Lu, Satayavivad, Zhou
18 Natural Medicine Materials	上園, 笹栗, 松本, Han	稲垣直樹, 磯濱洋一郎, 岩崎克典, 坪井正博, Lu, Satayavivad, Zhou
19 幹細胞薬理	黒川, Bhuiyan, Suh	Razzaque, Uddin
20 疼痛薬理	上園, 津田, Han	亀井淳三, Lu, Zhou
21 生物製剤薬理	Han, Bhuiyan	Lu, Razzaque, Uddin, Zhou
統計処理		浜田知久馬

統計処理を担当された浜田知久馬氏が平成 29 年 12 月に逝去された。

研究推進委員会報告

委員長：吉岡 充弘

委員：石川 智久，今井由美子，岩崎 克典，高井 真司，成田 年，西山 成，福永 浩司，宮田 篤郎，渡邊 裕司

本年度は委員会を2回開催した。

1. 「日本薬理学会の貢献（仮称）」パンフレットについて

第18回国際薬理学・臨床薬理学会議（WCP2018）参加者への配布に向けて、本パンフレットの体裁、内容、制作手順等を決定した。

パンフレットは、1) A4版8頁程度とし、まず日本語版を作成し、英訳して、双方を学会HP上に掲載する、2) インパクトの高い薬物に焦点を絞り、7～8項目の疾患別とし（生活習慣病薬、中枢作用薬など）、できるだけ開発者に原稿を依頼する、3) 図やイラストを挿入し、わかりやすく親しみやすいものとする、4) 2017年度内を目途に委員が分担して原稿を取りまとめる。

2. 「新薬理学セミナー」について

新薬理学セミナーは、「次世代の会」と連携を図り、2018年春の第138回関東部会（部会長：三澤 日出巳慶應義塾大学薬学部・教授）での開催準備を進めている。

3. 2017年度生命科学系学会合同年次大会について

日本生化学会と日本分子生物学会の協賛呼びかけに賛同し、2017年（平成29年）12月6日（水）より9日（土）までの4日間神戸で開催された合同年次大会で、以下のシンポジウムを開催した。

平成29年12月7日（木）、神戸国際会議場（兵庫県神戸市）

『シングルセル解析が切り開く薬理学の新潮流』 オーガナイザー：成田 年（星薬科大学）

山中 章弘（名古屋大学）

広報委員会報告

委員長（会誌編集長）：宮田 篤郎

委員：荒木 博陽，金井 好克，○金子 周司，亀井 淳三，川西 徹，木内 祐二，色摩 弥生，
原 英彰，平藤 雅彦，古屋敷智之，山田 久陽（○は会誌副編集長）

2017年3月15日と8月30日に委員会を開催した。

1. 日薬理誌への英文 Abstract 追加について

年会シンポジウムを基にした「特集」で掲載される英文 Abstract との重複が懸念される JPS Supplement について、エルゼビアとの契約変更が完了した。これにより、日薬理誌への英文 Abstract 掲載に問題が無くなったため、151巻1号より英文 Abstract の掲載を開始した。語数については最大250語とし、各原稿の規定ページ数には含まない。この点を反映して執筆の手引きも改定した。

2. 薬理学会 HP について

現状の薬理学会 HP は複数のサーバにまたがり、日英サイトでデザインに統一性がないため、全体的に構成を見直す必要がある。新しく運用が始まった新会員情報システムに加え地方部会 HP、さらに将来的には年会 HP も含めた形でのウェブサイトの完成を目指すことを確認した。これに向け、広報委員会にてサイトの構成を検討することになり、今年度末（2018年3月）を目安に方針を決め、次期広報委員会に引き継ぐ。

3. カラー印刷費用について

中西印刷より申し入れがあったカラー印刷費用に関する契約の見直しが理事会の承認を経て行われた。広報委員会としては、カラー印刷が必要となる図のみを厳選し、できるだけカラー印刷ページを減少させることを目指す。特に「特集」欄では、これまでシンポジウムオーガナイザーがカラー印刷の要不要を判断していたが、今後は広報委員会にて判断することを決定した。また、モノクロ図を使用するよう執筆の手引きに記載することも検討する。

4. 今後の誌面予定について（過去の年会シンポジウムからの原稿依頼について）

2018年は通常の年会が開催されず、WCP2018 と同時開催となるため、例年通りのシンポジウムを基にした「特集」の依頼を行えないことが予想される。「特集」を中心に誌面を構成している日薬理誌では、今後の誌面予定に大きく影響するため、その対応策として過去の年会シンポジウムで日薬理誌に掲載されていないものに再度執筆依頼を行うことが提案された。基本的にはシンポジウム単位での「特集」の掲載とするが、執筆者の変更などフレキシブルな対応を取ることとする。まずは、執筆依頼先の選定のため、第88回、89回年会より、候補となるシンポジウムをリストアップのう

え、広報委員会にて検討を行う。

なお、WCP2018のシンポジウムでは、できるだけ多くの国からのシンポジストで構成することが求められており、1件のシンポジウムのみで「特集」の執筆を依頼することが難しいが、同じフィールドの複数のシンポジウムを合わせて1つの「特集」とすることも提案された。可能であれば、今後の誌面計画としては、過去の年会からの「特集」とWCP2018からの「特集」の2本立てで進めることにしたい。

5. 新薬紹介総説に対する広告依頼について

新薬紹介総説に対する広告依頼について、日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）のガイドラインでは、「同じ製品について編集記事と広告が並んで掲載されることは避ける」「特定の記事と同じ号に掲載されることを条件とした広告を割り当ててはならない」という記載があることから、その取り扱いについて検討した。現在、広告依頼方法の変更に伴い広告掲載数が激減していることから、学会のためにできるだけ広告収入を得ることが望ましい。そこで、今後も当面は広告依頼を行うこととしたが、この件については、適正な掲載方法や企業への広告依頼アプローチ法も含め、次期広報委員会に引き継ぐ。

6. 日薬理誌の表紙デザイン変更について

広報委員長より、これからの日本薬理学会のグローバル化や看護薬理学推進などによる多種多様な会員を対象とする日薬理誌が周知されやすく、また魅力的になるように、その愛称である「くすりとからだ ファーマコロジカ」をさらに目立つ形とし、見栄えのする図を組み込んだ表紙デザインへの変更が提案された。表紙図については、その号の掲載内容から選定することも考えられるが、転載図が多いため問題が生じる可能性もある。著者に募集することなども視野に入れながら討論を進め、今年度末（2018年3月）を目安に大まかな方針を決め、次期広報委員会に引き継ぐ。

企画教育委員会報告

委員長：池谷 裕二

委員：石井 邦明、石毛久美子、稲垣 直樹、上園 保仁、杉山 篤、高橋 健三、橋本 均、柳田 俊彦

委員会を2回開催し、所管事項について検討を行った。その他に委員会横断的なメンバーによる薬理学エデュケーター制度ワーキングを開催した。

1. 新学術評議員候補者選考の件

新学術評議員選考規定に基づき、平成30年度に就任する新学術評議員申請者42名について慎重かつ厳正に審査を行った。うち2名については特例措置を適用した。委員会は42名の申請者全員を学術評議員候補者として選定し、理事会および学術評議員会に諮ることとした。今回より、申請要件を会員歴5年以上に改め、新会員管理システムからの電子申請とする等申請の簡素化を図ったが、会員への周知が十分行われなかったことも一因となり、申請者数は昨年並みにとどまった。

2. 薬理学エデュケーター制度ワーキング

本会が導入予定の薬理学エデュケーター制度は日本生理学会をモデルに日本薬理学会仕様に再編したものである。出願資格、認定の有効期間、認定の更新についてワーキンググループで検討中であり、2019年度に開催される第92回日本薬理学会年会より実施することを目指している。

3. 看護への取組み、看護大学等との連携の件

看護職者のキャリアアップを図り、看護職者が薬理学の教育研究者として活躍できることを目的とする薬理学教育セミナーが開催された。8月30日の日本看護研究学会第43回学術集会（日本福祉大学東海キャンパス）で「看護師に必要な薬の知識」をテーマとする看護薬理学公開セミナーと、11月18日に第70回西南部会で開催された看護薬理学教育セミナーである。2018年には日本看護研究学会第44回学術集会（熊本大学：前田ひとみ学術集会長）から公開セミナー共催の申し出があり、薬理学振興助成事業の看護薬理学カンファレンス2018と合わせて3回の開催が予定されている。

4. 専門分野カテゴリー表について

本会で使用されているカテゴリー表は『薬理学領域等』『研究対象（臓器・組織等）』『機能・物質等』の3階層で構成されているが、研究分野の進展や変遷に沿って補足・再編する必要性が認められること、また、薬理学エデュケーター制度導入や新しい分野の取り込みの一環で、新たな項目を追加することが必要であり、追加項目の候補について検討を行った。

5. 第90回年会で石毛 久美子教授（日本大学薬学部）が世話人となり、「イクボスが社会を変える～女性活躍・働き方改革を実現するための組織・職場づくりの成功の法則」のダイバーシティ推進ランチョンセミナーが開催された。

賞等選考委員会報告

委員長：石毛久美子

委員：安西 尚彦, 池谷 裕二, 上原 孝, 牛首 文隆, 金田 勝幸, 津田 誠, 西山 成, 服部 裕一

委員会を1回開催し、以下について審議した。

1. 第33回(平成30年度)学術奨励賞受賞候補者の選考について

「賞等選考委員会規定」、「学術奨励賞規定」、「学術奨励賞受賞者選考規定」を確認した。さらに、推薦書の評価方法について確認した。

次いで、候補者5名の推薦書について、「薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を發表し、将来発展の期待される研究者に対し授与する」(学術奨励賞規定第2条から抜粋)に基づく観点により、事前に全委員が審査した評価結果をもとに、本委員会ではそれらを多角的に分析し、慎重に審議した。その結果、上位3名を受賞候補者として決定し、泉 安彦氏、岡田 宗善氏、清水 孝洋氏(50音順)を第33回(平成30年度)学術奨励賞の受賞候補者として、選考の経過とともに理事長に答申した。

2. 平成30年度薬理学振興助成事業の選考について

申請があった下記4件について審査の結果、本委員会はすべての申請を採択する旨理事会に答申した。

- | | |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1) 市民公開講座 | 1,200,000円(広報委員会申請) |
| 2) 次世代薬理学セミナー(仮称) | 252,000円(吉岡研究推進委員長申請) |
| 3) 看護薬理学カンファレンス2018 | 1,000,000円(池谷企画教育委員長申請) |
| 4) 「日本の薬理学研究の世界貢献(仮称)」パンフレット作成 | 700,000円(吉岡研究推進委員長申請) |

3. 各種助成団体等への本会としての推薦

- ・日本医師会医学賞：1名を学会推薦
- ・島津賞：2名を学会推薦
- ・内藤記念科学振興賞：1名を学会推薦
- ・東レ科学技術賞：1名を学会推薦
- ・東レ科学技術研究助成：1名を学会推薦

年会学術企画委員会報告

委員長：高橋 健三

委員：池谷 裕二, 今井由美子, 岡 淳一郎, 宮田 篤郎, 吉岡 充弘, 渡邊 裕司

オブザーバー：植田 弘師, 金井 好克, 成宮 周

第90回年会長の植田弘師先生、第91回特別年会長の成宮周先生、第92回年会長の金井好克先生がオブザーバーとして参加した。2017年6月3日に委員会を開催し、その他にメール会議で審議等を行った。

1. 第90回年会の総括について

第90回植田年会長より、第90回年会の参加者数は2,007名、総演題数は916演題であり、プログラムおよび討論の充実化に取り組んだことから各会場で活発な議論が行われたこと、教育関連シンポジウム(薬理学教育エデュケーター制度)や看護薬理学教育セミナーは関心が高く盛況であったこと、などが報告された。また、直近2回の年会での懸念点であったシンポジウム・ワークショップ・セミナーの企画数増加について、公募シンポジウムを審査し採択数を絞り込むことでの対応を図ったが、適正な企画数については、全体プログラムを勘案して年会長が判断することが望ましいと考えられた。

2. WCP2018(第91回年会)の企画について

WCP2018のシンポジウム枠でセミナーシリーズとして、日本薬理学会企画によるJPS Frontiers Luncheon Sessionと、日本臨床薬理学会企画のJPS-JSCPT Frontiers Sessionを提案した。いずれの企画においても、それぞれの学会で活躍中の研究者が1日一人ずつ講演を行う予定である。

3. 第92回年会について

第92回金井年会長より、2019年3月14日～16日に大阪国際会議場にて開催される年会では、①参加者目線での企画を考えたい、②WCP2018開催後であることから、いかに参加者・演題数を確保するかが課題である、③WCP2018との棲み分けや補完する形を考えたい、④企業との連携を図りたい、などの方針が報告された。

4. 2018年度の他学会との共催シンポジウムについて

- ・日本生理学会との共催シンポジウム(日本生理学会大会での開催)：
「センシングチャネル研究へのシンプルなアプローチ：生理学から薬理学へ」
オーガナイザー：檜山 武史(基礎生物学研究所)、中川 貴之(京都大学)
- ・日本毒性学会との共催シンポジウム(日本毒性学会学術年会での開催)：
「毒性発現と性差」
オーガナイザー：黒川 洵子(静岡県立大学)

江橋賞選考委員会報告

委員長：岩尾 洋

委員：審良 静男, 栗原 敏, 清野 進, 祖父江 元 (以上学会外委員)
赤池 昭紀, 鈴木 勉, 中谷 晴昭, 矢部 千尋

第11回江橋賞候補者選定のための委員会を10月27日に開催した。

1. 第11回江橋節郎賞候補者選考経過について

- ・江橋節郎賞はこれまで独創的、飛躍的な業績をあげた研究者に授与されてきたが、推薦候補者が毎年1~3名と極めて少ないため、今後の薬理学の発展に貢献できる40~50歳代の研究者も賞の対象とする規定の変更を行っており、今回の候補者は4名となった。
- ・候補者4名について、i) 独創性, ii) 世界から見た位置づけ, iii) 当該分野に与えた影響度, iv) 研究の流れ, 今後の発展性, の4項目についてそれぞれ10点を満点とする事前評価を行ったが、事前評価結果は本選考において参考とすることとした。
- ・学会内委員による各候補者紹介の後、i) 独創性, ii) 世界から見た位置づけ, iii) 当該分野に与えた影響度, iv) 研究の流れ, 今後の発展性, について意見交換を行った。
- ・候補者の決定は投票によることとし、意見交換の後、候補者との共著がある学会内委員1名の投票辞退を受けて、議長を含む出席者7名で無記名投票を行った結果、投票数の3分の2以上を得票した萩原 正敏氏を、第11回江橋節郎賞受賞候補者として理事会に推薦することを決定した。

候補者の研究テーマ：『先天性難病等の治療を可能とする創薬研究』

2. 受賞候補者の研究について

萩原候補は、遺伝子発現制御機構の解明を進め、色の異なるGFP蛍光タンパク質を使って遺伝子発現パターンの変化を生体内で可視化する方法を世界で初めて開発し、独自のケミカルバイオロジーの新技術を駆使して、遺伝子の異常に起因し、従来薬物治療の対象とされてこなかった疾患が治療可能であることを疾患モデル動物や患者の細胞等で証明した。候補者が発見したスプライシングパターンを変える化合物は、様々な遺伝性疾患に適応可能で、これまで治療法の無い絶望的な遺伝病患者に希望を与えるものであり、今後の発展性についても大いに期待できる。

3. 選考委員の選出について

本会会員の研究は多岐にわたり、その研究を評価するためには委員の専門分野に配慮する必要がある。任期満了等に伴う委員の交代時には、現委員の専門分野を補完する分野から選出することを確認した。

国際対応委員会報告

委員長：飯野 正光

委員：吉岡 充弘 (副委員長), 赤羽 悟美, 安西 尚彦, 池谷 裕二, 金井 好克, 廣瀬 謙造

顧問：三品 昌美

委員会を2回開催し、随時メール審議を行った。

1. 本委員会は、日本薬理学会の中長期的かつ総合的な国際対応のために必要な方針や対応策を策定し、理事会に答申する。
2. ASPET (米国薬理学会) との交流については、2017年4月に委員長がJPS講師としてASPET年会 (シカゴ) で講演するとともにASPET総会においてWCP2018のプロモーションを行った。その後、二国間交流を継続したい意向がASPETから示され、2019年の第92回年会 (大阪) にASPETから講師を招聘することとなった。
3. ASCEPT (オーストラリア・ニュージーランド薬理学会) との交流については、第90回年会 (長崎) でMary Chebib氏の講演が行われた。また、ASCEPT年会 (ブリスベン) へのJPS講師として2017年12月に杉山雄一氏 (理研) を派遣した。
4. BPS (英国薬理学会) との第1回Joint Symposiumが2017年12月にロンドンで開催された。WCP2018会長である成宮周教授 (京大) と石井優教授 (阪大) がJPSシンポジストとして参加するとともに、WCP2018のプロモーションを行った。
5. APFP (Asia Pacific Federation of Pharmacologists) のホームページのリニューアルを安西委員を中心にしていた (<http://www.apfp.asia>)。
6. 韓国との交流については、2017年11月に委員長が韓国薬理学会 (ソウル) に参加し講演した。また韓国とのJoint Symposiumは、2012年以来中断しているが、2019年の第92回年会 (大阪) に合わせて再開するため先方と調整に入る。
7. NC-IUPHAR meeting (2017年10月13-15日, パリ) に貝淵弘三教授 (名大) を派遣した。
8. 委員長は、IUPHAR 2nd Vice President及びWCP2018 Secretary Generalとしてリミニ (イタリア) で開催されたIUPHAR理事会 (10月27-28日) に出席してWCP2018開催準備状況などについて報告した。
9. 国際交流活動について、会員により親しみを持ってもらうため、日本薬理学雑誌に「国際交流ひろば」を設け、国際交流の生の情報を届けることにした。

【WCP2018組織委員会報告】

委員：成宮 周（会長），川合 眞一（副会長），飯野 正光*（事務総長），赤池 昭紀*，
池谷 裕二，今井由美子*，上田 泰己*，大橋 京一，熊谷 雄治，手代木 功，萩原 正敏*，橋本 均，
松木 則夫，三品 昌美*，矢部 千尋，山崎 力，渡邊 裕司（*第23期日本学術会議IUPHAR分科会委員）

本会と日本臨床薬理学会の協力のもと，日本学術会議 IUPHAR 分科会と連携し，IUPHAR 執行部の助言と協力を受けつつ開催準備を進めた。

1. 日本学術会議の共同主催が，閣議決定を受け，正式に決定し，共同主催に係る事務及び経費分担について，日本学術会議と合意書を締結した。
2. プレナリーレクチャーに加え，目玉企画の一つとしてオープニングシンポジウムのシンポジスト 4 名を決定した：末松 誠，Garret A. Fitzgerald, Pierre Meulien, 手代木 功の各氏。
3. 本会議会期直前に，韓国や国内各地で 8 つのサテライトシンポジウム開催が決定した。
4. 参加登録および一般演題募集は 2017 年 8 月から受付を開始。国内外での登録促進活動に力を注いだところ，演題募集においては，2018 年 1 月 4 日の締切までに，想定を上回る 82 개국・2,352 題の登録があった。現在，全ての演題の査読を行っており，3 月までに採否を通知する予定。
5. IUPHAR による IUPHAR Young Investigator Award, および組織委員会が企画する若手向け参加助成プログラム (Congress Bursary) にも多数の応募があった。Congress Bursary については，演題内容に加え，応募者の地域・性別・年齢等のバランスにも配慮しながら審査を行っている。
6. ホームページデザインのリニューアルを行い，より一層の情報発信に努めた。学術プログラムの詳細や観光案内等，参加者の関心が高い内容を早期に掲載したところ，アクセス数が飛躍的に伸びた。また英国薬理学会年次大会での PR ブース設置，IUPHAR News Letter への記事掲載等，積極的な広報を行なった。
7. 約 100 社・団体へのスポンサーシップ募集要項の配布，日本製薬工業協会理事会での挨拶，スポンサー候補企業への個別訪問等，積極的にスポンサー募集活動を行った。現時点で，プラチナスポンサー 3 件，ゴールドスポンサー 4 件，シルバースポンサー 7 件が内定している。

【ダイバーシティの取組み報告】

ダイバーシティ推進担当理事・企画教育委員会委員：石毛久美子

1. 第 90 回年会におけるダイバーシティ企画シンポジウムについて
第 90 回年会会期中の 2017 年 3 月 16 日に，イクボスをテーマにランチョンセミナーが開催され，NPO 法人ファーズリング・ジャパン代表理事の安藤哲也氏による「イクボスが社会を変える～女性活躍・働き方改革を実現するための組織・職場づくりの成功の法則」というタイトルの講演を聴講した。聴講後のアンケートから，それぞれの立場で，「イクボス」について知り，考える機会となったことが伺えた。

【次世代の会活動報告】

代表：永井 拓（近畿）

委員：北部会：小原祐太郎，野村 洋，矢吹 悌
関東部会：井手聡一郎，大久保洋平，小菅 康弘，小山 隆太，宮川 和也，村田 幸久，藤田 智史
近畿部会：塩田 倫史，白川 久志，タムケオディーン，橋川 成美，村松里衣子，山村 寿男
西南部会：林 良憲，山口 拓，劉(島崎)爽

本年度は会議を 1 回開催する予定

1. 次世代の会による企画・シンポジウム

- 1) 第 60 回日本神経化学学会大会（平成 29 年 9 月 7-9 日，仙台国際センター）にて日本神経化学学会-日本薬理学会若手研究者合同シンポジウムを開催
テーマ：「次世代・その次の世代へ」
オーガナイザー：永井 拓（名古屋大学）
座長：塩田 倫史（岐阜薬科大学），和氣 弘明（神戸大学）
演者：和氣 弘明（神戸大学），橋川 成美（岡山理科大学），定方 哲史（群馬大学），小山 隆太（東京大学）

2) 次世代薬理学セミナー2018 の企画および運営

テーマ：「薬理学の次世代を築く新たなアプローチ」

“Novel approaches leading next generation of pharmacology”

主催：日本薬理学会「次世代の会」、日本薬理学会・研究推進委員会

共催：日本薬理学会（編集委員会，企画教育委員会，第138回関東部会）

日時：平成30年3月10日（土） 13:30～16:30

第138回日本薬理学会関東部会（慶応義塾大学薬学部薬理学講座三澤日出巳 教授 主催）と午後同時並行開催

場所：慶応義塾大学薬学部マルチメディア講堂

Organizer:Taku Nagai (Nagoya University), Fumitaka Osakada (Nagoya University)

Speakers : Greg Field (Duke University School of Medicine), Takuya Sasaki (The University of Tokyo), Yohei Okubo (The University of Tokyo), Atsushi Kasai (Osaka University), Minae Niwa (Johns Hopkins University)

3) WCP2018 次世代の会シンポジウム企画

“Mechanisms of white matter damage and repair: New therapeutic approaches for CNS diseases”

Organizer: Ken Arai (Harvard Medical School / Massachusetts General Hospital) , Hisashi Shirakawa (Kyoto University)

Speakers : Ken Arai (Harvard Medical School / Massachusetts General Hospital, USA) , Anna Rosell (Institut de Recerca Hospital Vall d’Hebron, Spain) , Yoon Kyung Choi (Konkuk University, Republic of Korea) , Hisashi Shirakawa (Kyoto University, Japan)

2. 「次世代の会」ホームページを開設

次世代の会の活動を紹介するとともに若手研究者の交流の場を提供することを目的として次世代の会ホームページ (<http://angesjps.umin.jp>) を開設し，理事会の了承を得た。

3. その他

- ・次世代の会の英語名称を「Association of Next Generation Scientists in Japanese Pharmacological Society (ANGES JPS)」とし，理事長および企画教育委員会の了承を得た。
- ・WCP2018 成宮会長からの依頼を受け若手合宿を企画することになった。

X. 新学術評議員一覧

平成30年度一覧（42名）

氏名	所属機関	〒 / 所在地	TEL
相澤 直樹 AIZAWA, Naoki	東京大学大学院医学系研究科 コンチネンス医学（寄附講座）	〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1	03-5800-9792
阿部 陽一郎 ABE, Yoichiro	慶應義塾大学医学部 薬理	〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 総合医科学研究棟6S1	03-5363-3750
天野 賢一 AMANO, Ken-ichi	持田製薬㈱総合研究所 研究企画推進部企画提携	〒412-8524 静岡県御殿場市神場字上ノ原722	0550-89-7881
荒木 良太 ARAKI, Ryota	摂南大学薬学部 複合薬物解析	〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1	072-800-1176
稲垣 昌樹 INAGAKI, Masakii	三重大学大学院医学系研究科 分子生理	〒514-8507 三重県津市江戸橋2-174 先端医科学研究棟3階	059-231-5005
岩城 孝行 IWAKI, Takayuki	浜松医科大学医学部 薬理	〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1-20-1	053-435-2271
大内 基司 OUCHI, Motoshi	獨協医科大学医学部 薬理	〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880	0282-87-2128
梶岡 俊一 KAJIOKA, Shunichi	九州大学大学院医学研究院 泌尿器科	〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1	092-642-5524
勝又 清至 KATSUMATA, Seishi	小野薬品工業㈱水無瀬総合研究所 創薬研究部	〒618-8585 大阪府三島郡島本町桜井3-1-1	
加藤 幸成 KATO, Yukinari	東北大学大学院医学系研究科 抗体創薬研究分野	〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1	022-717-8207
蒲生 修治 GAMOH, Shuji	九州保健福祉大学薬学部 薬理学第一	〒882-8508 宮崎県延岡市吉野町1714-14号棟	0982-23-5513
川田 浩一 KAWADA, Koichi	千葉科学大学薬学部 薬理	〒288-0025 千葉県銚子市潮見町15-8	0479-30-4783
鬼頭 宏彰 KITO, Hiroaki	名古屋市立大学大学院医学研究科 薬理	〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1	052-853-8151
合田 光寛 GODA, Mitsuhiro	徳島大学大学院医歯薬学研究部 臨床薬理	〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18-15	088-633-7471
小堀 浩幸 KOBORI, Hiroyuki	国際医療福祉大学医学部 薬理	〒286-0048 千葉県成田市公津の杜4-2	
雑賀 史浩 SAIKA, Fumihiko	和歌山県立医科大学医学部 薬理	〒641-8509 和歌山市紀三井寺811-1	073-441-0629
齊藤 秀俊 SAITOH, Hidetoshi	九州大学大学院薬学研究院 薬理学	〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1	
齋藤 僚 SAITO, Ryo	立命館大学薬学部 情報薬理	〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1	077-561-5976
清水 佐紀 SHIMIZU, Saki	大阪薬科大学薬学部 薬品作用解析	〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1	072-690-1053
清水 翔吾 SHIMIZU, Shogo	高知大学医学部 薬理	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮	

城野 博史 JONO, Hirofumi	熊本大学医学部附属病院 薬剤部	〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1	096-373-5823
鈴木 宏昌 SUZUKI, Hiroaki	東京医科大学医学部 薬理	〒160-8402 東京都新宿区新宿6-1-1	03-3351-6141
高田 龍平 TAKADA, Tappei	東京大学医学部附属病院 薬剤部	〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1	03-3815-5411
武智 研志 TAKECHI, Kenshi	徳島大学病院 臨床試験管理センター	〒770-8503 徳島市蔵本町2丁目50-1	088-633-9294
田和 正志 TAWA, Masashi	金沢医科大学医学部 薬理	〒920-0293 石川県河北郡内灘町字大学1-1	076-218-8107
土屋 幸弘 TSUCHIYA, Yukihiro	昭和薬科大学薬学部 薬理	〒194-8543 東京都町田市東玉川学園3-3165	042-721-1511
寺田 一樹 TERADA, Kazuki	福岡大学薬学部 創剤学	〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1	092-871-6631
戸村 裕一 TOMURA, Yuichi	アステラス製薬(株)研究本部 リサーチポートフォリオ部	〒305-8585 茨城県つくば市御幸が丘21	029-863-6544
長澤(萩原) 美帆子 HAGIWARA, Mihoko	東邦大学医学部 薬理	〒143-8540 東京都大田区大森西5-21-16	03-3762-4151
塗谷 睦生 NURIYA, Mutsuo	慶應義塾大学医学部 薬理	〒160-8582 東京都新宿区信濃町35	03-5363-3750
根本 互 NEMOTO, Wataru	東北医科薬科大学薬学部 薬理	〒981-8558 宮城県仙台市青葉区小松島4-4-1	022-727-0123
野部 裕美 NOBE, Hiromi	文京学院大学保健医療技術学部 作業療法	〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196	049-261-7973
早田 敦子 HAYATA, Atsuko	大阪大学大学院医学系研究科 子どものこころの分子統御機構研究センター	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2	06-6879-8182
藤原 博典 FUJIWARA, Hironori	富山大学和漢医薬学総合研究所 複合薬物薬理	〒930-0194 富山市杉谷2630	076-434-7613
堀田 祐志 HOTTA, Yuji	名古屋市立大学大学院薬学研究科 病院薬剤	〒467-8603 愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3-1	052-836-3754
堀ノ内 裕也 HORINOUCI, Yuya	徳島大学大学院医歯薬学研究部 薬理	〒770-8503 徳島市蔵本町3-18-15	088-633-7061
松崎 英津子 MATSUZAKI, Etsuko	福岡歯科大学口腔歯学部 歯科保存	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411
宮本 理人 MIYAMOTO, Licht	徳島大学大学院医歯薬学研究部 総合薬学研究推進室	〒770-8505 徳島市庄町1-78-1 臨床医学B棟5F	088-633-7252
柳瀬 雄輝 YANASE, Yuhki	広島大学大学院医歯薬保健学研究院 皮膚科	〒734-8551 広島市南区霞1-2-3	082-257-5237
山口 太郎 YAMAGUCHI, Taro	摂南大学薬学部 薬理	〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1	072-866-3109
横田 恵理子 AIZU-YOKOTA, Eriko	慶應義塾大学薬学部 薬学教育研究センター	〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30	
横山 詩子 YOKOYAMA, Utako	横浜市立大学医学部 循環制御医学	〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦3-9	045-787-2575